
文化資源研究センター 活動報告

2012

人間文化研究機構
国立民族学博物館

はじめに

国立民族学博物館（民博）に文化資源研究センターが設置されて9年が経過しました。文化資源研究センターは2004年4月、国立大学の法人化に合わせ、民博が大学共同利用機関法人人間文化研究機構の一員として再編されたのを機に、博物館機能を有する研究所としての役割をより十全に発揮するために、研究戦略センターとともに設置されたものです。

文化資源研究センターは、研究活動を通じて蓄積されるさまざまな情報や資料、経験や組織を、社会での活用が可能な文化資源として改めてとらえなおし、その有意義な活用の方途を研究・開発することを目的としています。「文化資源」という言葉に託されているのは、人間が生みだした有形・無形の所産とそれをめぐる知を、民博の活動を通じて、より広く社会と共有しようという意志です。

研究の推進に伴う資料や情報の集積と発信は、調査・収集、資料管理、情報化、社会連携、展示といった分野からなる、一連のプロセスを経て実現されます。文化資源研究センターはこうした各分野の基礎研究や開発研究を進めるとともに、民博の研究者が主体となって実施する「文化資源プロジェクト」と「文化資源計画事業」を支援し、その推進のうえでの企画調整を行なっています。

2012年度、文化資源研究センターでは、プロジェクトや事業の支援として、資料収集や映像番組制作、資料修復の技術開発、各種データベースの構築や展示活動、教育プログラムの開発実施など、65件のプロジェクトや計画事業の実施を企画調整しました。

なかでも、2011年度に引き続いて2012年度は、民博の本館展示のうち日本の文化（祭りと芸能、日々の暮らし）展示を一新しました。本館展示の新構築は開館以来の全館を挙げての大プロジェクトであり、しかも展示そのものにとどまらず、収集、保存、情報化のすべての分野にまたがる複合的な事業です。文化資源研究センターはその全体の企画調整にあたっています。

また、春には「今和次郎採集講義——考現学の今」、秋には「世界の織機と織物」と二つの特別展を開催しました。そして、2011年3月11日に起きた東日本大震災に際して、文化資源研究センターでも被災した文化財等の救出や保存について、可能な限りの協力・支援を行なうよう努めてまいりましたが、2012年度には、企画展「記憶をつなぐ——津波災害と文化遺産」、その関連イベント「南部藩壽松院年行事支配太神楽」、および研究公演「忘れられない絆、絶やさない伝統——震災復興と文化継承を願って」などを開催しました。こうした活動を通して、被災地の一日も早い復興を心より祈念するものです。

民博は大学共同利用機関であり、博物館機能を有する文化人類学・民族学の研究所であるという、世界的に見ても類のないユニークな組織です。その特徴を最大限に発揮するため、私たち文化資源研究センターは大きな職責を担っています。この場を借りて、今後とも、各方面からのご助言、ご支援をお願いする次第です。

2013年10月

文化資源研究センター長

朝倉敏夫

目 次

はじめに	2
文化資源研究センターの活動 2012（平成24）年度	
2012年度の活動概要	5
調査・収集分野	7
資料管理分野	8
情報化分野	10
社会連携分野	13
展示分野	15
資 料 編	
調査・収集分野	19
資料1. 文化資源プロジェクト	19
資料2. 文化資源計画事業	21
資料管理分野	25
資料1. 文化資源プロジェクト（機関）	25
情 報 化 分 野	26
資料1. 文化資源プロジェクト	26
資料2. 文化資源計画事業	27
資料3. 2012年度に公開したデータベース	27
資料4. 2012年度に修正・追加したデータベース	28
資料5. 編集した研究用映像資料（文化資源プロジェクト）	29
資料6. 編集したビデオテーク短編番組と マルチメディア・コンテンツ（文化資源プロジェクト）	30
資料7. 2012年度に公開したビデオテーク短編番組、 マルチメディア・コンテンツ、研究用映像資料	31
社 会 連 携 分 野	34
資料1. 文化資源プロジェクト	34
資料2. 文化資源計画事業	34
資料3. JICA との連携による博物館学コース	40
展 示 分 野	47
資料1. 文化資源プロジェクト（機関）	47
資料2. 特別展（文化資源プロジェクト）	47
資料3. 企画展（文化資源プロジェクト）	48
資料4. 企画展（文化資源計画事業）	48
資料5. 特別展・企画展の準備（文化資源プロジェクト）	49
資料6. 巡回展（文化資源計画事業）	50
資料7. その他の文化資源プロジェクト	51
資料8. その他の文化資源計画事業	52
スタッフ紹介（2012年度）	68

●.....●

文化資源研究センターの活動

2012(平成24)年度

●.....●

2012年度の活動概要

文化資源研究センターは、国立民族学博物館（民博）の文化資源の蓄積、管理や活用にかかわる多様な側面について、調査・収集、資料管理、情報化、社会連携、展示の分野から、先進的な基礎研究や開発研究を行なっている。

また、文化資源研究センターは、民博の研究者が主体となって提案、実施する「文化資源プロジェクト」「文化資源計画事業」の推進を支援している。そのためセンター教員は文化資源運営会議のもとにおかれた「資料収集・整理等専門部会」、「資料管理専門部会」、「展示場情報提供システム専門部会」、「博物館社会連携専門部会」、「展示専門部会」に所属し、当該文化資源プロジェクト等の企画調整に当たっている。それぞれの専門部会に所属する文化資源研究センター教員は以下のとおりである。

〈専門部会〉

◇資料収集・整理等専門部会

〈センター教員〉

久保正敏

日高真吾（部会長）

福岡正太

山本泰則

吉田憲司

◇資料管理専門部会

久保正敏

園田直子（部会長）

日高真吾

福岡正太

◇展示場情報提供システム専門部会

川瀬 慈

福岡正太（部会長）

山本泰則

◇博物館社会連携専門部会

上羽陽子

小林繁樹（部会長）

◇展示専門部会

上羽陽子

日高真吾

南真木人

吉田憲司（部会長）

本報告書では、活動内容を5つの分野別にわけて、各分野を担当する部会長が報告しているが、このほか集団研修博物館学運営委員会のもとに、集団研修博物館学集中研修専門部会があり、本センターからのメンバーは以下のとおりである。

川瀬 慈
久保正敏
小林繁樹（部会長）
園田直子
林 勲男
日高真吾
吉田憲司

冒頭にも述べたように文化資源研究センターは2004年度に設置され、その後4年が経過した2008年度にその前年度の2007年度版『文化資源研究センター活動報告（以下、『活動報告』）』が刊行され、以降、文化資源研究センターの活動が紙媒体として残されてきたが、昨年度からは紙媒体は廃止し、電子媒体として本館のホーム・ページに掲載した。

これらの記録を見るまでもなく、文化資源研究センターは、民博のいわゆる「博物館部門」に関するあらゆる業務を担ってきており、きちんとした成果を上げてきたことはいうまでもない。ここでは、この『活動報告』を書くにあたり、昨年度から文化資源研究センター長になり2年を振り返っての私の個人的所見を述べさせてもらおう。

一つには、文化資源研究センターの構成メンバーが固定化してきたため、民博の博物館部門の業務に対して、本センターにまかせっきりとなり、民博の教員全員で博物館部門の業務を担っていかうという意欲がいささか欠如してきているように感じた。そこで昨年度に引き続き、本年度も他の研究部からの異動と新規採用によって、新たな人材に加わってもらった。民博の教員が「一体となって」博物館部門についても役割を担うことを期待したい。

二つには、『活動報告』には、事業、業務の内容が記載されているだけで、文化資源研究センターの教員の研究活動についての報告がない。いわば「活動報告」というより「事業報告」になっている。そのため、文化資源研究センター自体が「研究センター」というよりは「業務センター」という認識を与えてしまう恐れがあるのではないかと感じた。私たちが研究センターとして、海外の博物館の動向調査、大学博物館等との連携など、文化資源に関する研究プロジェクトをより積極的、活発に推進していかなければならないと考えている。

本年度は、多目的収蔵庫建設の着手にともない舟などの大型 TENT、新大型 TENT 収蔵標本資料の評価、大阪府立大型児童館ビックバンからの6万点に及ぶ時代玩具コレクションの寄贈受け入れなど、新たに大きな事業があった。これらの事業をはじめ、文化資源研究センターに関する日常のルーティンの事業、業務のすべてを遂行できたのも、情報企画課、情報システム課をはじめ多くの関係者の支援・協力があってのことである。また、機関研究員の岩谷洋史には、次世代のビデオテークに関する調査研究に従事してもらい、呉屋淳子には「みんぱく『ソウルの子ども時間』」の製作に携わってもらった。ここに記して感謝する。

文化資源研究センターの活動は多様で広範囲にわたり、しかも研究と事業、業務にまたがる複雑な性格を有している。設立後9年が過ぎ、10年を迎えるにあたり、新しい文化資源研究センターの姿を模索していかなければなるまい。

（朝倉敏夫）

調査・収集分野

文化資源研究センターは、文化資源の調査・収集、体系的な資源管理と情報化を経て、共同利用や社会還元に供するという一連の流れに関わる基礎研究・開発研究とともに事業推進の企画・調整を行うことを目的としている。この文資センターの活動の核の一つである資料の収集と管理について、2007年度に、(1)標本資料・映像音響資料の収集、(2)標本資料・映像音響資料の整理・情報化、(3)標本資料・映像音響資料の利用・貸付、に関する検討を行うことを目的に「資料収集・整理等専門部会」が新設され、同年11月から活動を開始した。この結果、文化資源研究センターは、この専門部会との連携を通じて当該分野の企画調整に当たることとなった。

この分野での主な作業は、以下のとおりである。

- 1) 文化資源プロジェクトとして実行されるもののうち、収集・取材・編集プロジェクト、ならびに資料整理・情報化プロジェクトの進行状況の点検と助言
- 2) 標本資料の貸付、映像音響資料の利用の適否の検討と促進
- 3) 購入・寄贈等の案件の事前確認と検討
- 4) 研究用データベースの作成と公開
- 5) 「みんぱく映像民族誌」(DVD)の配付

2012年度の作業について、まず、1) 文化資源プロジェクトとして実行されるもののうち、収集・取材・編集プロジェクト、ならびに資料整理・情報化プロジェクトの進行状況の点検と助言については、58,184点の標本資料を収集するとともに、3件の映像取材を実施し25点の映像番組と1点のマルチメディア番組を取得した。これら個別の案件については資料編を参照されたい。

2) 標本資料の貸付、映像音響資料の利用の適否の検討と促進については、標本資料については、12機関に対して合計906点の資料の貸し付け利用があった。また、映像音響資料については、館内で98件(709点)、館外で77件(330点)の利用があった。

3) 購入・寄贈等の案件の事前確認と検討については、個々に検討と調整を進めた。それぞれの案件については資料編を参照されたい。4) 研究用データベースの作成と公開については、「梅棹忠夫著作目録(1934～)データベース」を作成し、公開した。5) 「みんぱく映像民族誌」(DVD)の配付については、研究用映像資料5作品を4枚のDVDに収納した「みんぱく映像民族誌」(第6集～第9集)を作成し、全国の国公立大学、都道府県中央図書館等のうち、624の機関に配付した。

(日高真吾)

資料管理分野

[概 況]

民博では研究の進展に伴い、毎年、各種の資料を集積している。資料管理分野では、これらの資料を体系的に管理するための調査や研究活動をおこなうとともに、関連する活動や事業の企画、調整をおこなっている。

民博所蔵資料の総合的保存管理システムの構築をめざす調査・研究は、文化資源プロジェクト（機関）「有形文化資源の保存・管理システム構築」でおこなわれる。当該プロジェクトは、文化資源プロジェクトの枠内であるため単年度ごとの申請となっているが、毎年度、見直しながら継続的かつ戦略的に進めている。プロジェクトの内容は大きく、1）有形文化資源の保存対策立案と、2）資料管理のための方法論策定で構成され、いずれも民博の一連の保存科学研究の成果を実践し、発展させる開発研究と臨床実験の場になっている。

資料管理分野では、上記プロジェクトを中心に、情報管理施設のプロジェクト的業務（標本資料関係は情報企画課、映像音響資料関係は情報システム課）と綿密な連携をとりながら、総合的かつ長期的視点で全体計画を進めている。

[成果概要]

1）有形文化資源の保存対策立案

総合的有害生物管理（IPM）の考えのもと、有形文化資源の生物被害防除・殺虫対策に関わる資料管理活動を企画、調整、総括した。化学薬剤を用いない殺虫処理の実用化実験の一環として、平成24年度は、多機能燻蒸庫において低酸素濃度処理の基礎実験を実施し、その結果をもとに関連設備、機器、プログラムを改良した。来年度以降、処理の実用化に向けた最終準備をおこなう準備が整った。

2）資料管理のための方法論策定

○博物館環境調査

- ・生物生息調査では、人間文化研究機構・連携研究の一環で開発した生物生息調査分析システムを用いて調査結果を分析し、防虫対策に役立てた。調査時ごとの分析のみならず、保存科学的見地から過去20年間の調査を分析し、本館における虫害傾向を総括した。
- ・温度・湿度モニタリングを継続実施した。モニタリング結果の分析には、人間文化研究機構・連携研究の一環で開発した新しい温度・湿度分析システムを活用するとともに、システムの操作性を検証した。平成24年度に実施した省エネ対策の影響を、実測値をもとに検証し、保存上の問題がないことを確認した。資料管理に携わる関連部署との空調ミーティングを隔週開催し、空調に関わる問題点と情報の共有、連携を密にした。
- ・空気の清浄度調査として、収蔵庫で簡易環境調査を実施し、その結果をもとに換気等で環境改善した。特別展示棟地下保管庫の床貼り直し工事に伴い、簡易環境調査とガス濃度測定の精密環境測定調査を実施した。
- ・展示場における事故報告書（2004～2011年度）を精査し、露出展示における資料事故の内容を分析、検証した。
- ・特別展、企画展、あるいは本館展示場における新構築の場において、照度、温度・湿度等の各

種環境調査を、逐次、実施し、その結果をもとに改善策をたてた。

○収蔵庫の配架・収納改善

- 展示や収蔵用の包材調査を継続実施し、データベースを拡充した。
- 一般収蔵庫 7 室、特別収蔵庫 5 室を対象に、収蔵状況の概要調査をおこなった。
- 第 3 収蔵庫に収蔵されている資料のうち長尺資料は、昨年度に開発した保管方法をもとに収蔵改良した。
- 第 3 収蔵庫の約 800 点の資料の配架見直し、再配架を実施した。(情報管理施設のプロジェクト的業務)
- SP・LP レコードのクリーニングを実施し、保存性を考慮した収納包材に収めた。(情報管理施設のプロジェクト的業務)
- 今年度から 3 年計画で、大型・新大型テントに代わる多機能資料保管庫新設、ならびに第 1 収蔵庫改修(人間文化研究機構・施設整備等整備事業費)が決定したのに伴い、全体計画を企画、調整した。

3) その他

- 「映像(画像)・音響資料管理方針について(中間まとめ案)」をまとめた。
- 2) 3) を通じて得られた知見や成果は、情報管理施設・情報企画課と情報システム課の資料管理業務に反映させ、プロジェクトの研究的側面と各課の日常的実践を有機的に連携させた。

(園田直子)

情報化分野

情報化分野では、①資料の整理・情報化とデータベースの作成・公開にかかわる文化資源プロジェクトや文化資源計画事業（以下、プロジェクト・事業）、②ビデオテープや電子ガイドをはじめ展示場における情報提供にかかわるプロジェクト・事業の支援を行っている。これらは、文化資源運営会議の資料収集・整理等専門部会、展示場情報システム専門部会と連携し、実際の作業にあたる情報システム課、情報企画課の協力のもとに進められる。

（１） 民博がもつさまざまな文化資源を整理・保管し、それらの情報を採録、データベースやデジタルアーカイブを作成して公開する2012年度の活動は次の5つに大別できる。

1) 資料の整理

情報化を前提として、さまざまな資料を整理し基本情報をテキストデータとして採録するプロジェクト・事業や、資料の保存状態を確認するプロジェクト・事業の実施を支援した。特に写真資料・映像資料に関するものは、資料の保存状態の点検と保存方法の検討や著作権の調査と譲渡手続、初校肖像権と一般公開の可否の検討もこれらのプロジェクト・事業に含まれている（資料編 情報化分野を参照）。

2) データベース、デジタルアーカイブの作成と公開

データベースやデジタルアーカイブの作成と公開にかかわるプロジェクト・事業について、実施のためにさまざまな支援を行った（資料編 情報化分野を参照）。

以下は、個々のプロジェクト・事業として必ずしも明確化されていたわけではないが、民博の情報化にとって重要な活動の一環として支援を行った。

3) 標本資料の画像管理情報、撮影・計測情報の点検と修正

標本資料の画像を管理している複数のデータベースを照合し、データの一貫性を保つとともに、同じ情報を重複してもたないように整理した。また、従来複数のデータベースで管理していた標本資料の撮影と寸法・重量計測情報をひとつのデータベースに統合した。

4) 統合検索システムとの連携

「梅棹忠夫著作目録（1934～）」データベースを民博から館外公開したことにともない、人間文化研究機構の「統合検索システム」（データベース横断検索システム）にもこのデータベースを登録し、横断検索できるようにした。

また、人間文化研究機構資源共有化事業の予算を得て統合検索システムに機能を追加し、民博の機関リポジトリである「みんぱくりポジトリ」より定期的にデータを自動収集し、統合検索システムを通して検索利用できるようにした。民博リポジトリの情報は、2013年度の早い時期に統合検索システムの横断検索の対象にする予定である。

5) 標本資料情報管理システムの改良

本館で運用している標本資料情報管理システム (I.B.Museum) について、1) システム外部の画像の表示方法、2) デフォルトの検索条件の設定方法、に関する機能修正・追加を行った。

今年度新たに作成・公開したデータベースはわずかであったが、すでに公開したデータベースについても、データを随時追加・修正しているものが少なくない (資料編 情報化分野を参照)。また、プロジェクト「民博所蔵ズニ標本資料の英文管理情報データベース製作」は、標本資料のソースコミュニティの人々の協力を得て資料情報を追加修正し、ソースコミュニティと情報を共有する試みである。今後の民博のデータベース作成のあり方を示唆するものとして注目される。

写真や映像を含むデータベースを館外公開するためには、撮影者や著作権継承者を特定し利用許諾や著作権譲渡の了承を得ること、写真に写っている人物の肖像権を考慮して公開の可否を検討することが必要である。これらは時間を要する作業であるが、地道に継続してできるだけ多くの情報を公開できるよう努力することが不可欠である。

民博が研究資料の情報化を始めて35年近くが経過した結果、蓄積している情報間の不整合が目立つようになってきている。プロジェクト・事業の支援と並行して、これらの点検・整理・修正も行ってきたが、いまだ完了していない。より適切な形で情報を作成・蓄積・維持・利用するために、研究資料の受け入れ・整理体制までも含めた情報化手順の再検討が求められる。

最後に、民博として今後どのような情報を作成し提供していくことが学界や社会に貢献することになるのか、長期の総合的な展望と戦略をたてることが依然として課題である。

(山本泰則)

(2) 展示場における情報提供は、ビデオテーク、みんぱく電子ガイドのほか、2011年度に新設された探究ひろばなどにおいておこなってきた。また、それぞれの展示チームの判断と責任により、いくつかの展示場においては、情報提供のための端末が展示の一部として設置されている。このうち、ビデオテークとみんぱく電子ガイドにかかわる事項について、情報システム課のサポートの下、文化資源研究センターの映像音響タスクフォースが中心となり、展示場情報提供システム専門部会と連携して、システムの運営および維持管理における諸問題の検討、本館展示の新構築に伴う新コンテンツ作成の計画と実施、次世代システムの検討と実験等をおこなった。

1) ビデオテーク関連

ビデオテークは、2012年3月に更新を終え、2012年度は順調に運用をおこなった。また、多機能端末室のビデオテーク端末を、次世代のビデオテーク検討のための実験的な端末として位置づけ、その機能や新しいコンテンツのあり方についての検討を進めた。その一環として、ビデオテーク番組化されていない映像の公開を進めるため、過去の特別展や企画展の記録映像のマルチメディアコンテンツ化をおこない、問題点の整理等をおこなった。なお、コンテンツの一部は2013年7月から公開を開始し、今後もコンテンツの継続的制作をおこなう予定である。並行して、将来のビデオテークにおける映像検索のあり方についても検討を進めた。

2) みんなく電子ガイド関連

2012年度のみんぱく電子ガイドの貸し出し件数は8,950回であり、入館者の約6パーセントにより利用された。本館展示新構築の進展にともない、新番組作りを進めた。新構築された展示について、まず日本語による番組を作り、それを基に英語、中国語、韓国語の番組を製作した。2012年度末までに、アフリカ、西アジア、オセアニア、アメリカ、ヨーロッパの各展示について、日本語、英語、中国語、韓国語のコンテンツを制作し公開した。今後も継続的に多言語による番組製作を進める予定である。一方、展示場に無線LANが敷設されたことを受け、無線LANを利用した双方向的な情報提供の検討に着手し、インフォメーションスタッフ用のタブレット端末等において、無線LANを使った情報提供の実験を進めている。今後、来館者が所有する情報端末への情報提供なども想定し、実験を重ねて問題点の洗い出しをおこなう予定である。

(福岡正太)

社会連携分野

【概 況】

文化資源研究センターの社会連携分野では、国内外の博物館や大学等との学術連携、ならびに、来館者をはじめとした一般利用者との社会連携、教員等の学校関係者との博学連携を通して、民博における文化資源を系統的、有機的に幅広く共同利用していくためのネットワークづくり、手法開発、試行的実践に取り組んできた。具体的には、館内における博物館社会連携専門部会、博物館学集中研修専門部会、情報企画課社会連携グループ等と連携をとりながら、館内教員が提案した「文化資源プロジェクト」と、大学共同利用機関としての共同利用基盤を整備するとともに、研究成果を普及することを目的とした「文化資源計画事業」を遂行してきた。

【文化資源プロジェクト】

1) 博学連携教員研修ワークショップ2012 in みんなく

民博の展示場や所蔵資料を教育活動に活用した具体的な実践例をもとに、博学連携のさまざまな可能性をさぐるためのワークショップを、学校の教員対象に実施した。ワークショップは学校の教員研修に適した夏休みに原則として行ない、ワークショップの実践とそれにもとづく議論を学校教員と民博のスタッフとの間で行なった。

2) カムイノミ及び重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」演舞の実施

本館が所蔵するアイヌの標本資料に対して、安全な保管と後世への確実な伝承を目的に、祈りの儀式（カムイノミ）を行なった。あわせて国の重要無形民俗文化財であるアイヌ古式舞踊の演舞を、一般公開で実施した。

【文化資源計画事業】

1) 「みんなく」の新規および改訂版の制作

学習キット「みんなく」は、学校機関や各種社会教育施設を対象に、本館の研究成果をわかりやすく伝えることを目的とした学習キットであり、2013年3月現在で12種類19パックが用意されている。異文化との出会いにおいてどのようにものを見つめ、それらと語らうことができるのか、その先にある物語をどう読みとるのかという民博ならではのコンセプトで企画、設計されたものであり、総合学習への利用や民博見学に関わる事前、事後学習に活用されている。

しかし、「みんなく」の中には損傷の激しいものや時代にあわなくなっているものがあるため、体系的に推進する方針を検討し、新版「ソウルのこども時間」と改訂版「ソウルスタイル」の制作を実施した。（実際の運用開始は5月より）

2) ワークショップの実施ならびにワークシートの運用

本館で行なわれる各種研究活動ならびに展示内容を、来館者を中心とした一般利用者により効果的、効率的に理解してもらうと同時に、一般利用者から様々な意見や情報をフィードバックさせることを目的としたワークショップならびにワークシートの開発を実施した。

3) ボランティア活動支援

本館に登録している2団体（みんなくミュージアムパートナーズ、地球おはなし村）の活動支援を行なった。

みんなくミュージアムパートナーズ（通称MMP）は、本館の博物館活動の企画や運営をサポートする自律的な組織として2004年9月に発足した団体で、館内で視覚障がい者を対象とした展示場案内、休日・祝日等のイベント企画とその運営、学校団体向けの展示場体験プログラムの企画とその運営といった、多岐に広がる活動を本館との協働で進めている。

地球おはなし村は、2003年に本館で開催した特別展「西アフリカおはなし村」を契機とし、2005年10月に発足した団体である。館内における音楽活動や昔話の語り活動等を行っており、近隣の児童センター、小学校および児童福祉施設などでも広く活動を行なっている。

両団体は、国立民族学博物館におけるボランティア活動を継続的に推進していて、当館にとって無くてはならない市民活動の場となってきた。両団体の活動内容の紹介や報告等を通じた交流も継続的に行なうほか、他組織とのボランティア交流会へも参加するなど、当館と市民をつなぐ結節点の一つとしての役割を果たしている。

このほかに、博物館学集中研修専門部会が民博を代表し、国際協力機構（JICA）からの委託を受け、滋賀県立琵琶湖博物館と共に実施する「博物館学コース（Comprehensive Museology）」も開催された。

博物館部門の社会連携においては、校外学習や事前・事後の学習に役立つ本館のツールを紹介する「先生のためのガイダンス」や学校団体や身体障がい者向けの展示場体験プログラムなど、いくつもの事業を広報企画室企画連携係あるいはみんなくミュージアムパートナーズと共同あるいは協力して行なってきた。

このように社会連携は、館外、館内のさまざまな機関・部課との幅広い協力関係によって実現されるものであり、今後もその媒介機能を十分に果たしていくことが課題である。

（小林繁樹）

展示分野

文化資源研究センターにおいては、展示タスクフォース担当者が、展示専門部会の部会長、その下部組織の特別展・企画展ワーキング・グループのリーダー、ならびに本館展示新構築総括チームのリーダーを務め、さらにその他のセンター教員もそれらの組織の中心的メンバーとして活動するかたちで、民博の展示活動の企画・調整・支援に当たってきた。以下、「本館展示」、「特別展」、「企画展」、「その他」のそれぞれの分野に分けて、平成24年度の活動を報告する。

【本館展示】

平成24（2012）年度は、平成20年度から開始された本館展示新構築の第5年次にあたり、本年度は、日本文化の展示のうち、「祭りと芸能」「日々の暮らし」のセクションの展示を新たに構築し、平成25年3月に一般公開した。

日本文化の展示については、その大部分が開館当初のままにおかれてきた。今回の展示新構築は、従来の「日本の祭りと芸能」「すまいと暮らし」という構成を踏襲しつつも、「展示基本構想2007」に基づき、その内容を刷新するものであった。

「祭りと芸能」については、日本展示新構築の協力者でもある福原敏男氏が主宰する共同研究「民俗行事における造り物の多様性」の成果を盛り込み、とくに平成23年度に収集した「つくりもの」3点を新たな展示資料として組み込んだ。

「すまいと暮らし」では、里、海、町、山の暮らしのコーナーに分け、従来の農山漁村の日常の暮らしに、物流や移動という要素を組み込んで、文化の動態を示す新たな展示の実現をめざした。あわせて、とくに東北地方の暮らしと、2011年3月11日に東北地方を襲った地震・津波の後の復興と民博によるその支援を紹介するコーナーを設け、日本の文化を、現在の社会動態の中から見直す契機とした。

日本文化の展示のうち、次年度平成25年度に新設する「沖縄の暮らし」「多みんぞくニホン」のセクションの整備により、日本文化の歴史や現代の動向についての最新の研究成果を盛り込んだ展示が完成する。平成25年度は、同時に朝鮮半島の文化、中国地域の文化の展示場の更新を予定している。これにより、来館者にとって、日本の文化を東アジアの文化の中で改めてみつめなおし、日本と世界の間を再考する機会を提供する展示が実現する。

【特別展】

平成24（2012）年には、久保正敏（文化資源研究センター教授）を実行委員長として、4月26日から6月19日の会期で、春の特別展として「今和次郎 採集講義——考現学の今」を開催した。この特別展は、考現学の創始者・今和次郎（こん わじろう）の事跡と、その考現学を受け継いで民博で展開されてきたさまざまな研究に焦点を当て、モノに着目して身近な風俗の一切を丸ごと記録することの意味とその成果を検証した。

考現学の手法と対象は民族学とよく似ており、みんぱくを創設した梅棹忠夫も、考現学的調査に触発されてモンゴルなど海外調査の記録を数多く残している。その後のみんぱくの研究者にも考現学の遺伝子は引き継がれ、モノ調査とインタビュー調査を組み合わせた文化研究、映像による記録、データベースによる分析など新しい調査手法を取り入れつつ研究がなされてきている。

モンゴルのゲルの家財に関する梅棹忠夫と最新の調査との比較、京都の町家暮らしの家財道具

一式である大村しげコレクション調査の一端、考現学創始当時の洋装、そしてみんなく開館当時に行われた民家模型製作のための民家調査資料など、みんなくで進められてきた様々な資料や研究をとおして、考現学の「今」を紹介した。

また、平成24年9月13日から11月27日までは、吉本忍（民族文化研究部教授）を実行委員長として、特別展「世界の織機と織物——織って！みて！織りのカラクリ大発見」を開催した。この展示では、世界各地で収集された織機と織物の展示を通じて、織りの技術、織機構造のカラクリ、織物の実像などをあきらかにすることをめざした。

織物を織るという技術は、人類史の中核技術として古代から現代に至っており、産業革命やIT革命も織りの技術の延長線上にある。この特別展では、入館者が展示資料を見るだけではなく、織りを体験することができる場をもうけ、さまざまな織りのカラクリを自らのからだや小型の簡易型織機模型などを使って実体験することによって、織りの技術、道具としての織機、織物がいかなるものであるのかということを知ることができるよう試みた。この展示は、世界各地で今まで継承されてきたさまざまな織りの技術を総覧する、世界的に見てもはじめての機会となった。

【企画展】

民博では、特別展より規模が小さな、期間を限った展示を実施する場として、本館展示場の中に、企画展示場を設けている。平成24年度には、企画展示場A（展示面積約290㎡、大学共同利用型展示場）で、平成24年9月27日から11月27日まで、企画展示場Aで日高真吾（文化資源研究センター准教授）ほかの担当により企画展「記憶をつなぐ——津波災害と文化遺産」を開催した。また、それに先立つ平成24年5月31日から8月21日の期間には、同じ企画展示場Aにおいて、同展のプレ展示として企画展関連写真展「写真で見る東日本大震災と被災文化遺産のレスキュー」を開催し、後に企画展「記憶をつなぐ——津波被害と文化遺産」で展示することになる写真パネルを展示して、当時展開中の被災文化遺産のレスキュー活動を同時進行的に紹介した。

企画展「記憶をつなぐ——津波災害と文化遺産」の展示は、このレスキュー活動にともに加わった国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館との共催で人間文化研究機構の連携展示として開催したものである。

2011年3月11日に発生した東日本大震災による甚大な被害は、我々の社会に大きな試練をもたらした。原発の被害はもとより、地震・津波の傷は深く、「大震災」は現在進行中の出来事である。地域コミュニティそのものの存続があやぶまれるなかで、被災地では例年以上に祭りや芸能の奉納が活発に行われた。それは、人間の「生」にとっての、有形・無形の文化遺産の価値を改めて認識させられる出来事であった。

こうした文化遺産の復興の支援に、国立民族学博物館も、同じ人間文化研究機構に属する国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館などと連携して関わってきた。この企画展では、文化遺産の復興の作業に目を向け、われわれの社会にとっての文化遺産の意義を改めて見直すとともに、その文化遺産を通じて、この震災・津波の記憶をいかに未来に継承し、次代の社会を築き上げていくのかを考える契機とした。

なお、同展は、平成25年1月30日から3月15日まで、国文学研究資料館へ巡回した。

【巡回展】

平成24年には、上記の館内での特別展・企画展のほか、7月14日から9月2日の会期で、石川

県立歴史博物館において、「マンダラ展——チベット・ネパールの仏たち——」が民博の巡回展として開催された（担当：南真木人）。平成15（2003）年に民博で開催した同名の特別展を再編して公開したものであるが、本展覧会については、インド・チベット・ネパール・ブータン・日本といったアジア各地の神像・仏像・絵画等を広く日本国内の多くの人びとに紹介すべく、全国各地で巡回展示が続けられてきている。民博の展示活動の継続的展開としても重要な活動として位置づけられるものである。

また、8月4日～10月21日には、国立民族学博物館所蔵のアフリカのビーズ細工250点を通じて、アフリカのビーズのアートとしての豊かな世界を、その文化的背景を踏まえつつ紹介する展示を、神奈川県立近代美術館・葉山で同館主催、民博共催のかたちで開催した（担当：池谷和信、吉田憲司）。この試みは、民博のこれまでの特別展「異文化へのまなざし」（1997年）、「アジアとヨーロッパの肖像」（2008年）、「彫刻家エル・アナツイのアフリカ」（2010年）に続き、博物館と美術館の壁を越えた新たな協働の形を提示したものである。

さらに、上述のとおり、本年度、民博で開催した企画展「記憶をつなぐ——津波災害と文化遺産」が、民博での閉幕後、平成25年1月30日から3月15日までの会期で、人間文化研究機構連携展示として国文学研究資料館で開催されている。

（吉田憲司）



資 料 編



調査・収集分野

資料1. 文化資源プロジェクト

1. プロジェクト名：東日本大震災で被災した文化財の保管環境に関する調査研究

提 案 者：日高真吾 文化資源研究センター

事業の概要：本プロジェクトは、東日本大震災において、レスキューをおこなった民俗資料の一時保管場所の環境の在りようについて検証するものである。具体的には、国立民族学博物館、宮城県気仙沼市旧月立中学校文化財収蔵庫、新潟県村上市奥三面歴史交流館重要有形民俗文化財奥三面の山村用具収蔵庫の環境調査を実施し、廃校を利用した場合の保管環境の創出方法について検討をおこなった。

2. プロジェクト名：標本・映像音響資料の国内購入、サモアのファインマットの収集

提 案 者：丹羽典生 研究戦略センター

事業の概要：オセアニアの研究資料の充実化及び将来的なオセアニア展示場の更新を見据えて、サモアのファインマット（ie sae）の購入を行った。

3. プロジェクト名：日本展示新構築のための芸能・祭関係資料の収集及び製作

提 案 者：笹原亮二 民族文化研究部

事業の概要：平成24年度に行う日本展示新構築で使用する芸能・祭関係資料の収集・製作、及び、平成23年度に収集したつくりものの展示場での組立・設置を行った。資料の収集は野原八幡宮（熊本県荒尾市）風流の笠（シシガシラ）、資料の製作は与論十五夜踊（鹿児島県与論町）の仮面・来迎会（東京都世田谷区）の花籠、つくりものの組立・設置は矢部八朔祭大造り物（熊本県山都町）・平田一式飾（島根県出雲市）について、それぞれ実施した。

4. プロジェクト名：「日本のなかの外国人」（仮称）のための資料収集および調査

提 案 者：庄司博史 民族社会研究部

事業の概要：日本展示はH25年度、新構築の枠内で二つのコーナー「沖縄展示」、「日本のなかの外国人」（仮称）を新設するが、本プロジェクトは後者にかかわるもので、コーナー企画、実施のための(1)外国人生活実態および展示資料に関する調査、(2)標本資料収集をおこなった。主な実施内容は、1) 外国人インタビューによる調査を兼ねた映像収集、2) 在日韓国人、ミャンマー人、ムスリム、ベトナム、インド、パキスタン、中国人関連等の生活資料、民族衣装、信仰関連資料、3) 中国、インド、ネパール関連の学校資料、4) ムスリムの食品等の生活雑貨の収集である。

5. プロジェクト名：植民地期における朝鮮半島の文化に関する標本資料の収集

提 案 者：朝倉敏夫 文化資源研究センター

事業の概要：平成25年度に実施される「朝鮮半島の文化」展示の新構築にむけて、朝鮮半島の近代化が進んだ植民地期の文化に関する標本資料を収集した。実施内容は、2012年8月と2013年2月の2回にわたって収集作業を行った。収集にあたっては、全北大学人類学科の咸翰姫教授に諮問し、国立民俗博物館の姜昊杓学芸員、玄泳佶氏の協力を得た。

6. プロジェクト名：台湾原住民族の現代工芸品の収集

提 案 者：野林厚志 研究戦略センター

事業の概要：台湾原住民族の現代の工芸作家ならびに工房において製作している工芸品の収集を行い、現代における先住民工芸の様相を調査、研究するための基礎資料として民博に収蔵すると同時に、研究成果公開の一環として常設展示を行うための資料として活用する。事業では、当初の計画にしたがい、原住民族であるタイヤル族、パイワン族（東部、南部）、クヴァラン族、ルカイ族の伝統的衣装と現代のデザイン衣装とを収集し、その背景となる民族誌的データを収集した。

7. プロジェクト名：華僑華人の標本資料収集

提 案 者：陳天璽 先端人類科学研究部

事業の概要：中国展示では華僑華人コーナーを新しく設置することに決定した。本プロジェクトは、華僑華人と中国との関わりが表出する標本資料の収集、充実化を目的とした。歴史的に華僑華人を多数送りだしてきた僑郷と呼ばれる地域（主に南部沿海）を中心に標本資料の収集を行った。

8. プロジェクト名：漢族の祖先祭祀、四合院の映像取材及び文房四宝・磁器の資料収集

提 案 者：韓敏 民族社会研究部

事業の概要：中国展示新構築に向けて、2012年12月6日～12日に福建省廈門、泉州、石獅、晉江、永定で漢族の祖先祭祀、居住様式の映像取材及び祖先位牌、文房四宝、茶器の資料収集を行った。2013年3月には、上海、瀋陽、北京で婚礼用品、山水画、景德鎮の磁器などの資料収集を行った。

9. プロジェクト名：アイヌの魚皮製衣服の収集と映像取材

提 案 者：佐々木史郎 先端人類科学研究部

事業の概要：平成22年度から3年かけて、アイヌの魚皮衣を復元し、その制作過程を映像化した。シロザケの生皮を入手し、それを処理して衣装の材料とする所から取材を始め、多数のシロザケの皮を継ぎ合わせて大きな平面素材とし、それを裁断縫製して上衣とする。本プロジェクトは、痛みが目立ってきた本館展示場のアイヌの魚皮衣のスペアを作成するとともに、その過程を映像化して、アイヌの伝統技術の復元と伝承に寄与することを目指した。

10. プロジェクト名：モザンビーク「武器を農具に」プロジェクトにかかわる立体造形作品ならびに関連民族誌標本資料の収集

提 案 者：吉田憲司 文化資源研究センター

事業の概要：1992年のモザンビーク内戦終結後、民間に大量に残された銃器を農具と交換することで回収し、その回収された銃器を用いてアートの作品を生み出すというプロジェクトが進められている。このプロジェクトによる作品4件と関連資料を収集した。

11. プロジェクト名：現代韓国社会をめぐるトランスナショナリズムに関する標本資料の収集

提 案 者：太田心平 民族社会研究部

事業の概要：韓国とカナダと米国にて、現代韓国社会をめぐるトランスナショナリズムに関する標本資料の収集をおこなった。予算の約9割で購入した購入・発送した標本資料に、寄贈を受けたものを含め、平成25年度に「朝鮮半島の文化」展示を新構築する準備が出来た。

12. プロジェクト名：ロシア・モンゴル・中国におけるトゥバの現代変容に関する取材

提 案 者：小長谷有紀 民族社会研究部

事業の概要：ロシア、モンゴル、中国にまたがって居住する、トゥルク系言語をはなすトゥバ人について、みずからトゥバ人である研究者を聞き手として、映像取材をおこなった。

資料2. 文化資源計画事業

1. プロジェクト名：標本資料「アルーティックの仮面」の寄贈受入

提 案 者：岸上伸啓 研究戦略センター

事業の概要：スタンフォード大学名誉教授別府春海氏から、同氏が現地で購入したアラスカ先住民アルーティックの仮面の寄贈の申し出があり、国立民族学博物館の標本資料として寄贈を受け入れた。

2. プロジェクト名：標本資料「ミャンマーの楽器および人形」の寄贈受入

提 案 者：福岡正太 文化資源研究センター

事業の概要：東南アジアの音楽芸能についての理解を深めるための資料として、ミャンマーの楽器サウン・ガウック1台および人形芝居ヨウター・プェーに用いられる人形4体の寄贈を受け入れた。

3. プロジェクト名：植村直己資料の追加登録について

提 案 者：岸上伸啓 研究戦略センター

事業の概要：植村直己氏による1973年グリーンランド横断時に、実際使用されていた資

料が1977年度に受け入れられ、その内62点は整理し、本館の標本資料として登録された。しかし、キャンプ用品やテント、カメラなど既製品のものについては登録されていなかった。現在、植村直己の亡き後は、それらの資料は貴重なものとなっているため、本館の標本資料として登録した。

4. プロジェクト名：標本資料「オマーン・イエメン銀製品資料等」の寄贈受入

提 案 者：上羽陽子 文化資源研究センター

事業の概要：現在民博では、オマーン・イエメンの資料は約200点あまりしか収蔵されていない。今回、オマーン・イエメンの関係資料として、オマーン銀製品資料73点、イエメン銀製品資料4点、コイン資料62点、紙幣4点、生活用具11点、衣服8点、計162点の受け入れをおこない、現在収蔵中の資料とともに充実をはかることができた。

5. プロジェクト名：標本資料「カパハカ（マオリの芸能）の衣装・道具」の寄贈受入

提 案 者：ピーター・マシウス 民族社会研究部

事業の概要：「オセアニア展示の部分改修」の一環として「先住民のアイデンティティ表現」セクションに展示物を追加するため、カパハカの衣装（上衣・布製スカート・フラックス製スカート（2点）・収納袋（2点））、練習用のボイの寄贈を受け入れた。

6. プロジェクト名：標本資料「大黒様像、大黒様型貯金箱」の寄贈受入

提 案 者：日高真吾 文化資源研究センター

事業の概要：本資料は寄贈者のお宅が商売をされていた時期に店先に置かれていたものである。今回、日本展示新構築のなかの「日々の暮らし」セクション「町の暮らし」において、展示資料として寄贈され、受け入れた。

7. プロジェクト名：標本資料「大漁旗」の寄贈受入

提 案 者：日高真吾 文化資源研究センター

事業の概要：本資料は日本の文化展示場の新構築の協力者である川島秀一氏を通して、川島氏ご自身がフィールド調査をおこなっている地域の漁師より寄贈いただき、受け入れをおこなったものである。

8. プロジェクト名：標本資料「米国先住民ホピの儀礼用衣装（部分）」の寄贈受入

提 案 者：伊藤敦規 研究戦略センター

事業の概要：平成24年3月に民博で実施した研究公演「ホピの踊りと音楽」のために民博で制作し使用した衣装の一部について、制作者全員から利用許諾を取得し、民博に標本資料として寄贈された。

9. プロジェクト名：標本資料「奥谷家所蔵の稲作資料」の寄贈受入

提 案 者：日高真吾 文化資源研究センター

事業の概要：本資料は日本の文化展示場の新構築のなかで、「日々の暮らし」セクションのうち、「山の暮らし」のなかで、展示するために、寄贈いただき、受け入れをおこなったものである。

10. プロジェクト名：標本資料「生駒市所蔵の稲作資料」の寄託受入

提案者：日高真吾 文化資源研究センター

事業の概要：本資料は生駒市教育委員会が長年収集してきた生駒の稲作農具である。今回、日本の文化展示場の新構築のなかで、「日々の暮らし」セクションのうち、「里の暮らし」のなかで、展示するために、寄託いただき、受け入れをおこなったものである。

11. プロジェクト名：標本資料「焼畑関連資料」の寄贈受入

提案者：日高真吾 文化資源研究センター

事業の概要：本資料は日本の文化展示場の新構築のなかで、「日々の暮らし」セクションのうち、「山の暮らし」のなかで、展示するために、寄贈いただき、受け入れをおこなったものである。

12. プロジェクト名：標本資料「大阪府立大型児童館ビッグバン所蔵『時代玩具コレクション』」の寄贈受入について

提案者：日高真吾 文化資源研究センター

事業の概要：本資料は大阪府立大型児童館ビッグバンが所蔵していたもので、大阪府指定民俗文化財で、江戸時代から平成にかけての玩具コレクションである。大阪府立大型児童館ビッグバンが運営方針を変更するに伴って、コレクションの散逸を防ぐために当館で受け入れをおこなった。

13. プロジェクト名：小山修三名誉教授が撮影した「オーストラリア・アボリジニ研究フィールド写真」の寄贈受入

提案者：久保正敏 文化資源研究センター

事業の概要：小山修三名誉教授が撮影した「オーストラリア・アボリジニ研究フィールド写真」の寄贈受入をおこない、現在、寄贈の覚書の作成と交換の準備は整えるとともに、覚書については、人間文化研究機構の顧問弁護士等との相談を進めている途中である。

14. プロジェクト名：映像音響資料「京都大学学術調査隊関連資料」の追加寄贈受入

提案者：吉田憲司 文化資源研究センター

事業の概要：京都大学学術調査隊関連写真資料の追加分として、写真資料計4447コマの寄贈を受け入れた。これにより、同学術調査隊の残した写真資料を十全な形で本館に所蔵することができるようになった。

15. プロジェクト名：「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と収集：韓国国立民俗博物館

との交流事業

提 案 者：朝倉敏夫 文化資源研究センター
太田心平 民族社会研究部

事業の概要：3年計画の3年次として、本館「朝鮮半島の文化」に関する映像資料収集の新たなシステムを構築するため、韓国国立民俗博物館との交流協定に基づき協議を行い、延世大学、西江大学、漢陽大学で映像人類学を専攻する学生に研修を受けさせて作品を制作した。

資料管理分野

資料1. 文化資源プロジェクト（機関）

プロジェクト名：有形文化資源の保存・管理システム構築

保存科学の見地から、資料を体系的に管理するための調査、研究活動をおこなった。有形文化資源の保存対策立案では、化学薬剤を用いない殺虫処理法の条件整備として、多機能燻蒸庫において低酸素濃度処理の基礎実験を実施した。これにより来年度以降、処理の実用化に向けた最終実験をおこなう準備が整った。資料管理のための方法論策定では、博物館環境調査を計画的に実施し、調査時ごとの分析のみならず、長期的視点のもと総合的に分析を進め、文化資源の体系的な管理につとめた。収蔵資料の保管・収納方法の改善に引き続き段階的に取り組むとともに、新たに決定した多機能資料保管庫新設と第1収蔵庫改修（人間文化研究機構・施設整備等整備事業費）計画を企画、調整した。

今後の展開の可能性

民博では研究の進展に伴い、毎年、各種の学術資料を集積している。これら膨大な資料の適切な管理は、民博の研究活動の基盤となる。民博所蔵資料の総合的保存管理システムの構築をめざす本プロジェクトは、館として総合的かつ長期的視点のもとで継続的に進めるプロジェクトとして位置づけられるものであり、今後とも、適時、計画を見直しながら戦略的に進める。

人間文化研究機構の施設整備等整備事業費を受け、今年度から3年計画で大型・新大型テナントに代わる、多機能資料保管庫新設と第1収蔵庫改修が決定した。これにより、収蔵庫改修・改善計画の一部が先行実施されることとなるが、これまで計画的に進めてきた一般収蔵庫の配架・収蔵改善（第3収蔵庫で進行中）は、同時進行で継続実施する。

博物館機能を持つ研究所として本館は、保存科学研究の成果をすぐに資料管理の現場で応用、実践できる強みをもつ。また、本プロジェクトで得られる成果や知見のなかには、他の施設でも応用可能なものが多い。今後とも、さらなる研究開発を続ける。

課 題

本プロジェクトは、総合的・長期的視点で進めてこそ意味をもつ。プロジェクトで得られた知見や成果は、情報管理施設における資料管理の業務に反映させることで、プロジェクトの研究的側面と、資料管理の日常的実践が有機的につながる。そのためには、研究者のみならず、膨大なデータの一次分析を行い、研究と業務との連携に携わる人材が不可欠であるが、この役割は外部委託に頼っているのが現状である。また、現場の仕事に携わる人びとの多くが3年契約の職員であること、経験者が定年を迎えたこと、これらを鑑みると職員を中心とした経験や知識の伝承は喫緊の課題である。より長期的な視点のもと、資料管理の業務を、館内そして外部委託で適切かつ効率的に実施できるよう、持続的な体制づくりが急がれる。

情報化分野

資料1. 文化資源プロジェクト

1. プロジェクト名：三次元CGを利用した民族建築デジタルアーカイブの構築

提 案 者：佐藤浩司

事業の概要：民族建築デジタルアーカイブは、世界の民族建築（地域社会で完成されたいわゆる伝統的な住宅様式のこと）を記録し、その情報を三次元CGを利用して図像化、インターネット上に公開してゆこうというプロジェクトであり、ユニークな木造建築の宝庫であるオーストロネシア語族（インドネシア、ベトナム）を中心に三次元CG化をおこなった。2009年度、2011年度、2012年度の3年間で、あわせて30民族49棟（一部未完成）の建物の三次元CGを作製し、これらのデータを公開するためのデータベース化をおこなった。

2. プロジェクト名：民博所蔵ズニ標本資料の英文管理情報データベース製作

提 案 者：伊藤敦規 研究戦略センター

事業の概要：ズニ博物館館長が2009年7月に来館し、31点のズニ資料の熟覧調査を実施した。本プロジェクトでは、ズニ博物館長が記録に残した資料情報をデータベースに書き加え、さらに日本語で記されているその他の管理情報を英訳する作業を行った。

3. プロジェクト名：京都大学学術調査隊関連資料の整理とデータベース作成

提 案 者：吉田憲司 文化資源研究センター 共同提案者：久保正敏

事業の概要：京都大学を拠点として組織された学術調査隊による記録写真のうち、京都大学アフリカ類人猿学術調査隊、京都大学アフリカ学術調査隊の写真資料11663点について、各撮影者または、著作権継承者との間で著作権全面譲渡の覚書の締結処理を進めたうえ、民博のデータベース検索システムにより館内公開した。さらに、京都大学探検部トンガ王国学術探検隊資料の7644点について、テキスト情報を付加した。

4. プロジェクト名：世界の布文化データベース（アジア）の構築

提 案 者：久保正敏 文化資源研究センター

事業の概要：民博に収蔵されている身装（身体と装い）関係資料のうち、成形されていない布地標本（例：サリー、腰布）の素材、文様デザイン、染織技法等を中心に、フィールドで得られた写真と連動しながら、地域（民族の居住地域等の区分に基づく8地域）ごとにデータベース化を行う。さらには、民博標本資料データベースと、身装文献データベースとのリンクを実現させる。

5. プロジェクト名：オーストラリア・アボリジニ研究フィールド写真データベースの情報追加作業

提 案 者：久保正敏 文化資源研究センター

事業の概要：平成22年度に、「オーストラリア・アボリジニ研究フィールド写真データベース」として館員公開したデータベースのキャプション情報の追加に伴い充実を図った。

6. プロジェクト名：ビデオテークデータベースの再構築

提 案 者：福岡正太 文化資源研究センター

事業の概要：ホームページから公開しているビデオテークデータベースのうち、「メニューで選ぶ」方のユーザインタフェースを、展示場に設置しているビデオテーク端末のものとほぼ同様の画面構成を持ち、ほぼ同様の振る舞いを行うものに更新した。

資料2. 文化資源計画事業

1. プロジェクト名：標本資料データベースクリーニングのための支援ツールの開発とデータベース公開

提 案 者：山本泰則 文化資源研究センター

事業の概要：民博が所蔵する標本資料に関する基本情報および学術研究情報の公開を効率よく進めるために、作業支援ツールの開発・刷新を行った。また、作成したツールを実際のデータ作成とクリーニング作業に適用し、データベースへのデータの追加・更新と公開を実施した。

資料3. 2012年度に公開したデータベース

1. 梅棹忠夫著作目録（1934～）データベース

梅棹忠夫本館初代館長の論文・著書から本の帯の推薦文まで、あらゆる著作を網羅した目録データベース。各著作の書誌事項に加え、「収録」・「転載」・「文庫版」など、著作間の関係情報を記載。6,473件。2012年12月ウェブを通して公開。

資料4. 2012年度に修正・追加したデータベース

1. 標本資料目録データベース

18,128件のデータを追加して、合計263,465件をウェブを通して公開。

2. 標本資料詳細情報データベース

217件のデータを追加して、合計47,196件をウェブを通して公開。また、16,397件のデータを追加して、合計261,800件を館内公開。

3. 標本資料記事索引データベース

4,186件のデータを追加して、合計44,523件をウェブを通して公開。

4. 映像資料目録データベース

28件のデータを追加して、合計7,853件をウェブを通して公開。

5. ビデオテークデータベース

20件のデータを追加して、合計626件をウェブを通して公開。また。ビデオテークブースと同じメニューで番組を探す方式を一昨年度更新した新システムの画面デザインに合わせた。

6. オーストラリア・アボリジニ研究フィールド写真

写真キャプションの修正。地図からの検索、カテゴリー検索機能を追加。合計626件をウェブを通して公開。

7. 図書・雑誌目録データベース

図書は、5,860件のデータを追加して合計649,785件をウェブを通して公開。雑誌は、123タイトルのデータを追加して合計16,758タイトルをウェブを通して公開。

8. Talking Dictionary of Khinina-ang Bontok (ボントック語音声画像辞書) データベース

1件のデータを追加して、合計7,637件をウェブを通して公開。

9. 衣服・アクセサリデータベース

587件のデータを追加。この中には、新たに設けた「ネパール衣文化」に属する写真情報が含まれる。合計19,577件をウェブを通して公開。

10. 身装文献データベース

6,925件のデータを追加して、合計151,869件をウェブを通して公開。

11. 近代日本の身装電子年表データベース

191件のデータを追加して、合計10,049件をウェブを通して公開。

資料5. 編集した研究用映像資料（文化資源プロジェクト）

1. プロジェクト名：「インド・ラージャスターン州における社会変容と婚礼」に関する長・短編作品の製作
番組タイトル：ラージャスターンの結婚式（前編・後編）
担当教員：三尾稔（研究戦略センター）
2. プロジェクト名：徳之島町井之川集落の映像による地域誌番組の製作
番組タイトル：夏目踊りを踊るシマ 徳之島 井之川集落誌
担当教員：笹原亮二（研究戦略センター）
3. プロジェクト名：マラナオ文化に関する長編映像番組の編集
番組タイトル：*Maranao Culture at Home and in Diaspora*
担当教員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
4. プロジェクト名：マラナオ文化に関する長編映像番組の編集
番組タイトル：*Olaola o Meranao sa Inged a go sa Kiaparakan Kiran*（マラナオ語）
担当教員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
5. プロジェクト名：フィリピンのゴング音楽に関する記録・教材用番組およびDVDの制作
番組タイトル：クリントン音楽の至宝——マイモナ・カダー（DVD、日本語）
担当教員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
6. プロジェクト名：フィリピンのゴング音楽に関する記録・教材用番組およびDVDの制作
番組タイトル：*Maimona Cadar: A Master Kolintang Player from the Philippines*
（DVD、英語）
担当教員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
7. プロジェクト名：フィリピンのゴング音楽に関する記録・教材用番組およびDVDの制作
番組タイトル：*Maimona Cadar: Malim sa kakoolintang a Meranao*（DVD、マラナオ語）
担当教員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
8. プロジェクト名：スペイン音楽に関する映像番組（英語版、スペイン語版）の編集
番組タイトル：*Valencia's Virgin Mary Festival and the Dolzaina*（英語、22分）
担当教員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
9. プロジェクト名：スペイン音楽に関する映像番組（英語版、スペイン語版）の編集
番組タイトル：*El Festival de Virgen María y la Dulzaina*（スペイン語、22分）
担当教員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）

10. プロジェクト名：日本展示新構築のための長浜曳山祭の映像資料の製作
担 当 教 員：笹原亮二（研究戦略センター）

資料6. 編集したビデオテープ短編番組とマルチメディア・コンテンツ（文化資源プロジェクト）

1. プロジェクト名：「インド・ラージャスターン州における社会変容と婚礼」に関する長・短編作品の製作
番組タイトル：ウダイプルの結婚式（ビデオテープ番組）
担 当 教 員：三尾稔（研究戦略センター）
2. プロジェクト名：「インド・ラージャスターン州における社会変容と婚礼」に関する長・短編作品の製作
番組タイトル：ウダイプルのホーリー祭（ビデオテープ番組）
担 当 教 員：三尾稔（研究戦略センター）
3. プロジェクト名：中国雲南省ペー族の社会と文化を描くビデオテープ用映像番組の編集
番組タイトル：中国雲南省ペー族のたいまつ祭り（ビデオテープ番組、24分23秒）
担 当 教 員：横山廣子（民族社会研究部）
4. プロジェクト名：中国雲南省ペー族の社会と文化を描くビデオテープ用映像番組の編集
番組タイトル：中国雲南省ペー族の中元節（ビデオテープ番組、23分09秒）
担 当 教 員：横山廣子（民族社会研究部）
5. プロジェクト名：中国雲南省ペー族の社会と文化を描くビデオテープ用映像番組の編集
番組タイトル：中国雲南省ペー族の結婚式（ビデオテープ番組、23分09秒）
担 当 教 員：横山廣子（民族社会研究部）
6. プロジェクト名：中国雲南省ペー族の社会と文化を描くビデオテープ用映像番組の編集
番組タイトル：中国雲南省ペー族の暮らしと文化（マルチメディア番組）
担 当 教 員：横山廣子（民族社会研究部）

資料7. 2012年度に公開したビデオテープ短編番組、マルチメディア・コンテンツ、研究用映像資料

1. 「アメリカ先住民 ホピの銀細工づくり ― 銀板に重ね合わせる伝統」

制作監修：鈴木紀（先端人類科学研究部）、伊藤敦規（研究戦略センター）

アメリカ先住民ホピに伝わる銀細工づくり。その独特な制作技法と作品に表されるホピの伝統や世界観を見てみよう。（番組番号1705）

2. 「イスラム教の礼拝と巡礼」

カイロ市内での金曜日の集団礼拝と、聖都メッカでくりひろげられる、年に一度の大巡礼。（番組番号1318）

3. 「バスニ・カラン村の領主の暮らし」

制作監修：三尾稔（研究戦略センター）

インド西部のかつての戦士カーストの子孫が、今の領主の館を紹介し、昔の暮らしのようすを語る。（番組番号1702）

4. 「バスニ・カラン村の女神祭礼」

制作監修：三尾稔（研究戦略センター）

インド西部の村で雨季明け（9月頃）に行われる祭り。女神に犠牲をささげ、豊作や村人の無病息災を祈る。（番組番号1703）

5. 「ラージャスターンの戦士の霊 サガスバウジー」

制作監修：三尾稔（研究戦略センター）

インド西部では戦死者の霊が霊媒に憑依し、人びとの願いをかなえる。霊にインタビューを試みた。（番組番号1704）

6. 「ウダイプルの女神祭礼」

制作監修：三尾稔

インド西部の女神祭礼は時代とともに様変わりしている。変化のようすや村と町の祭りの違いを紹介する。（番組番号7218）

7. *Kulintang*

制作監修：Usopay Hamdag Cadar, TERADA Yoshitaka

Kulintang is a type of gong music in the Southern Philippines. The film portrays the music as played by Maranao people on Mindanao Island.（番組番号3694）

8. *Kakoolintang o Manga Meranao*

制作監修：Usopay Hamdag Cadar, TERADA Yoshitaka

So kolintang na sabarang ko boniboni-an sa pagabagatan a Pilimpinas. Peki-ilay a

pinikola ini so kakoolintang a Meranao sa Polo a Magindanao. (番組番号8007)

9. *Maranao Culture at Home and in Diaspora*

制作監修：Usopay Hamdag Cadar, TERADA Yoshitaka

The film shows Maranao traditional gong music of the southern Philippines in its current context as affected by regional conflict and resultant diaspora. (番組番号7220)

10. *Olaola o Meranao sa Inged a go sa Kiaparakan Kiran*

制作監修：Usopay Hamdag Cadar, TERADA Yoshitaka

Giya-i na pilikola a osayan ko kakoolintang o manga Meranao a go antona-a i miyambetad iyan sabap ko kiniparak iran imanto. (番組番号7221)

11. 「21世紀の人びとが出会う20世紀の都市 群山」

製 作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

植民地時代の建築物を観光資源として生かす韓国の都市、群山の現在の姿を映し出す。(番組番号2804)

12. 「21세기사람들이 20세기도시, 군산」

製 作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

식민지시대 건축물을 관광자원으로 살려낸 한국의, 군산의 모습을 화면에. (番組番号8008)

13. 「入隊」

製 作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

韓国の2人の学生が臨む兵役。入隊までの数日間を追う。(番組番号2805)

14. 「입영」

製 作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

병역을 맞이하는 두 명의 한국 대학생. 입대까지 수일간을 따라가보다. (番組番号8009)

15. 「トッポギ——追憶を食べ現在を語る」

製 作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

トッポギの屋台は、小腹を満たしたい若者や思い出の味を懐かしむ人で賑わう。(番組番号2806)

16. 「떡볶이—추억을 먹고 현재를 말한다」

製 作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

떡볶이 포장마차는 배를 채우려는 젊은이들이나 추억의 맛을 그리워하는 사람들로 북적거린다. (番組番号8010)

17. 「ものとかぞく ― 『2002年ソウルスタイル』 の記録」

制作監修：朝倉敏夫、佐藤浩司

ソウルのアパートに住む平凡な家族がすべての持ち物を博物館に展示することになった。物を通してみえてきた家族のきずな。(番組番号7158)

18. 「雲南省ペー族の葬式」

制作監修：横山廣子

漢族地域ではほとんど見られなくなった、死者に対する子孫の孝の観念を色濃く残す葬礼の細部を雲南省大理盆地で収録している。(番組番号1700)

19. 「誰も知らなかった国トゥバ ― 研究者はなぜトゥバへ行ったのか」

制作監修：小長谷有紀

世代の異なる4人の研究者たちが、トゥバとの出会いや生活体験を語ることによって、その魅力を伝える。(番組番号1701)

20. 「トゥバに魅せられた人々」

制作監修：小長谷有紀

トゥバに魅せられて足しげくかようようになった研究者たちが、その現地での体験を語ることによって、トゥバの魅力を伝える。(番組番号7219)

21. 「被災した民俗資料の保存修復 ― 石川県穴水町指定『明泉寺台燈籠』」

制作監修：日高真吾

能登半島地震により倒壊した穴水町指定文化財「明泉寺台燈籠」。研究者や職人など、さまざまな人の手を通じてよみがえる。(番組番号1707)

社会連携分野

資料1. 文化資源プロジェクト

1. 博学連携教員研修ワークショップ2012 in みんなく

プロジェクト・リーダー：小林繁樹（文化資源研究センター）

2012年8月7日(火)に、博学連携教員研修ワークショップ2012 in みんなく「学校と博物館でつくる国際理解教育－新しい学びをデザインする－」を、日本国際理解教育学会との共催で開催した。参加者は主に小・中・高等学校、支援学校等の教育機関教諭、大学生、大学院生など計83名であった（昨年度参加者数109名）。スタッフは、館内20名（内 MMP 9 名）、館外45名であった。なお、大阪府教育センターの初任者研修の教員も9名参加した。

2. カムイノミ及び重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」演舞の実施

プロジェクト・リーダー：齋藤玲子（民族文化研究部）

2012年11月29日(木)に、本館が所蔵するアイヌの標本資料に対して、安全な保管と後世への確実な伝承を目的に、祈りの儀式（カムイノミ）を行った。併せて国の重要無形民俗文化財であるアイヌ古式舞踊の演舞を、一般公開で実施した。

3. 学習キット「みんなく」の新規および改訂版の制作

プロジェクト・リーダー：朝倉敏夫（文化資源研究センター）

「みんなく」の中には損傷の激しいものや時代にあわなくなっているものがあるため、館の事業として体系的に推進していかなければならない。その推進方式について検討し事業の推進を段階的に進めるために、新規版と改訂版の「みんなく」の制作を実施した。2002年に制作した「ソウルスタイル」を基礎として、現状に合わせ刷新を行った「改訂版 ソウルスタイル」を2パック、新しいテーマによる韓国のパック「ソウルのこども時間」を2パック制作し、2013年5月1日より運用開始した。

資料2. 文化資源計画事業

1. ワークショップの実施ならびにワークシートの運用

プロジェクト・リーダー：小林繁樹（文化資源研究センター）

民博で行なわれている各種研究活動ならびに展示の内容を、来館者を中心とした一般利用者に、より効果的、効率的に理解してもらうと同時に、一般利用者からの様々な意見や情報を民博内にフィードバックさせることを目的としたワークショップならびにワークシートの開発を実施した。

2. ボランティア活動支援

プロジェクト・リーダー：小林繁樹（文化資源研究センター）

国立民族学博物館におけるボランティア活動者の受入要項に基づき、登録したボランティア団体である MMP（みんぱくミュージアムパートナーズ）および地球おはなし村の活動支援を行なった。

● MMP による企画・実施したイベント

・点字教室

2012年 4月14日(土)・5月12日(土)・6月9日(土)・7月14日(土)・8月11日(土)・9月8日(土)・10月13日(土)・11月10日(土)・12月8日(土)・2013年 1月12日(土)・2月9日(土)・3月9日(土)

・あそびのひろば2012「織る編むであそぼう！」

2012年 5月5日(土)

・夏のみんぱくフォーラム2012 知りたい、触れたい、調べたい——「みんぱく流」探究のすすめ関連イベント「探究ひろば」から世界へ！（視覚障がい者展示場案内）

2012年 6月30日(土)・7月16日（月・祝）

・夏休みものづくりワークショップ「帆つきアウトリガーカヌーを作って帆走させよう！」

2012年 7月29日(日)

・年末年始展示イベント「へび」関連イベント おりがみで遊ぼう！～干支シリーズ～『巳』

2013年 1月14日（月・祝）

・年末年始展示イベント「へび」関連イベント えとの『巳』で絵馬をつくろう

2013年 1月19日(土)

● 地球おはなし村による企画・実施したイベント

・おはなし、おはなし～西アフリカの昔話をかたる～

2012年 5月24日(木)・6月17日(日)・7月26日(木)・8月19日(日)・9月16日(日)・10月25日(木)・11月11日(日)・1月20日(日)・3月28日(木)

3. 学習キット「みんぱく」運用の実績

学習キット「みんぱく」は平成24年度の運用を無事に終えることが出来た。24年度は、136の学校や社会教育施設に、のべ213回の貸出を行った。

運用を通じて利用者から得た要望や意見を今後の開発・運用に可能な限り反映させていく。

1) 運用について

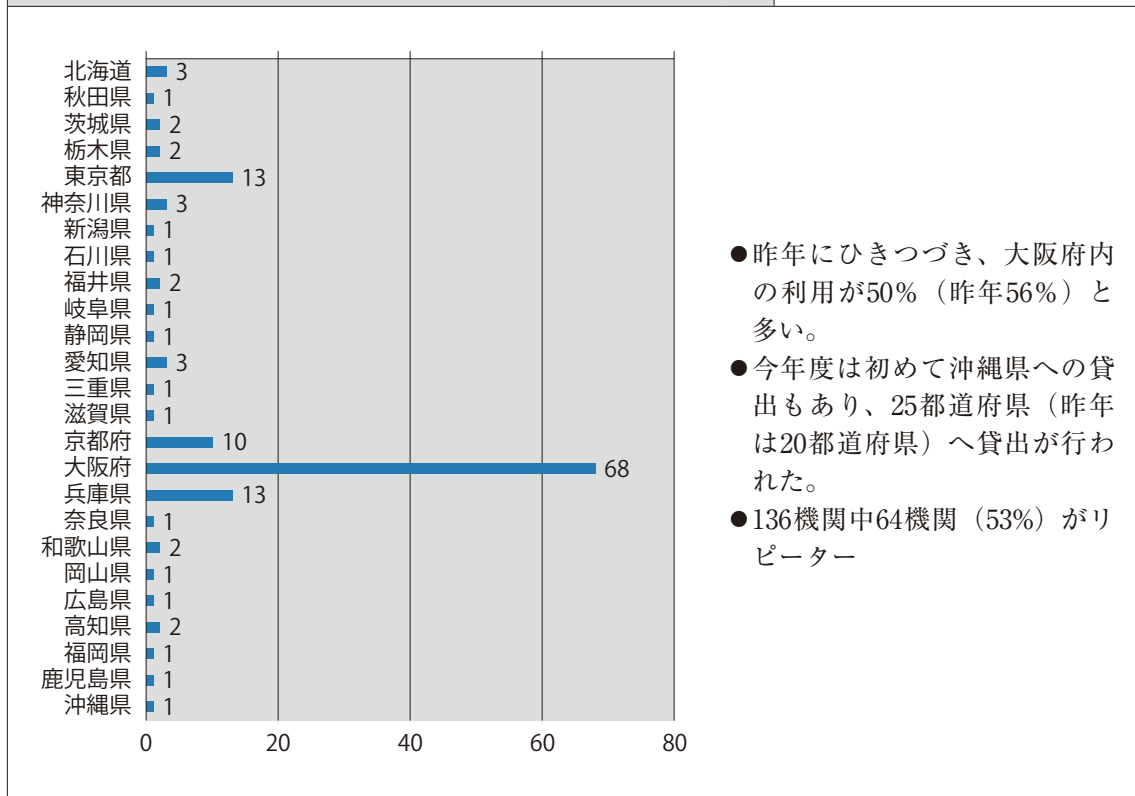
1) 運用パック		
名 称	制作担当教員	個数
極北を生きる	岸上 伸啓	2
アンデスの玉手箱	關 雄二	2
ジャワ文化をまとう	福岡 正太	1
イスラム教とアラブ世界のくらし	西尾 哲夫	1
ブータンの学校生活	栗田 靖之	1
ソウルスタイル	朝倉 敏夫	4
	佐藤 浩司	
インドのサリーとクルター	杉本 良男	2
プリコラージュ	佐藤 浩司	3
アラビアンナイトの世界	西尾 哲夫	2
アイヌ文化にであう	佐々木利和	1
アイヌ文化にであう 2	佐々木利和	1
モンゴル	小長谷有紀	2
計		22

2) 運用概況

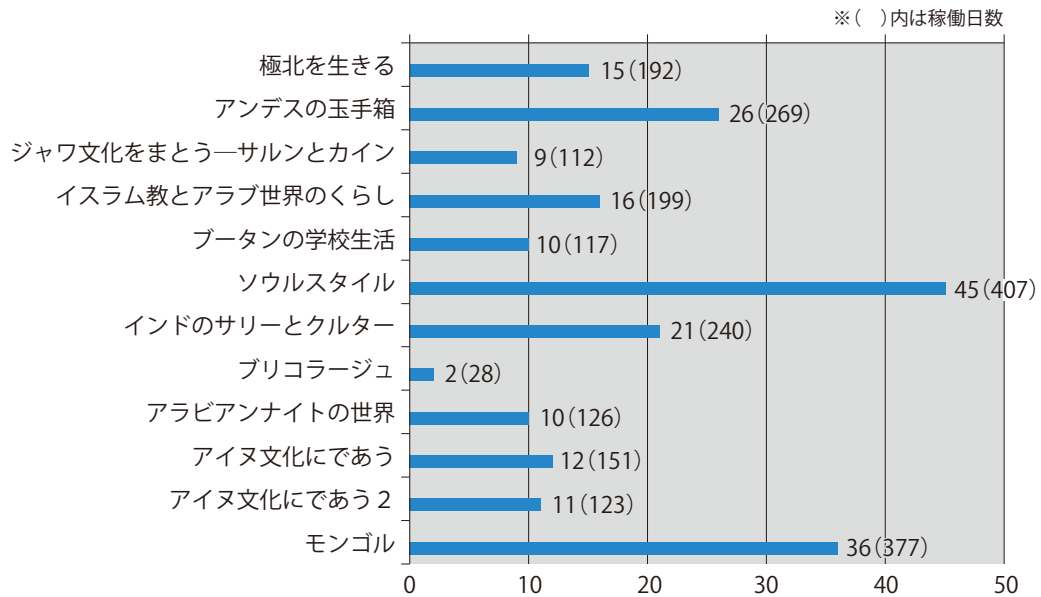
●貸出対象 小中高等学校 社会教育施設等		
●貸出期間 1回につき2週間以内		
●使用料 輸送費のみ利用者負担		
		23年度実績
◆貸出回数	213	208
◆貸出機関	136	121
	小学校	46
	中学校	26
	高等学校	14
	大学	5
	その他*	37
◆利用人数	10,276	10,112
(サンプル 96 件中) : (サンプル 87 件中)		

* 5) を参照ください。

3) 都道府県別利用状況 (貸出機関単位: 合計136件)

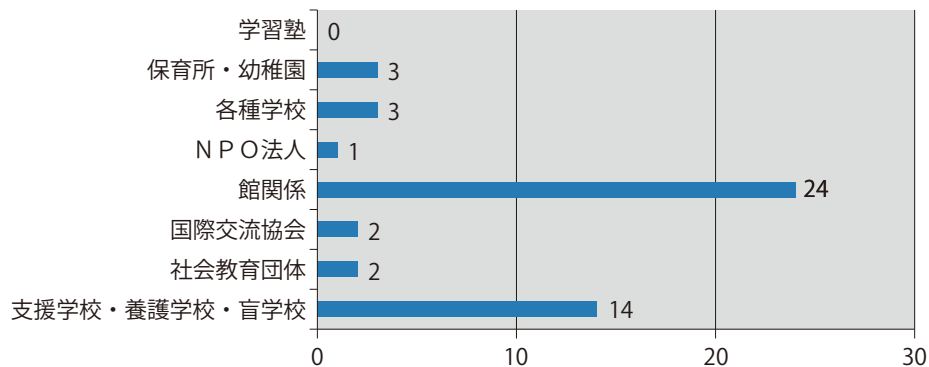


4) パック別利用件数 (サンプル: 213)



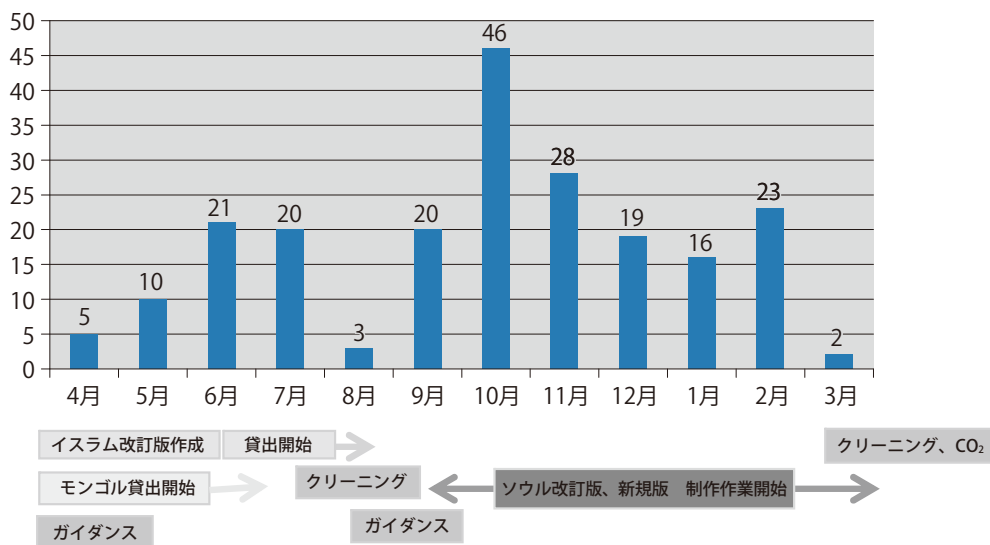
- 昨年度より貸出件数が増え、過去最多件数に並んだ。
- 例年どおり4パックでの運用を行っている「ソウルスタイル」の利用件数が最も多い。
- 「モンゴル」の貸出を開始し、2パックでの運用ながらソウルスタイルに次ぐ貸出件数となった。

5) 貸出機関における「その他」の機関内訳 (サンプル: 45)



- 館関係が多いのはMMPや千里文化財団が月別で何度も利用しているため。

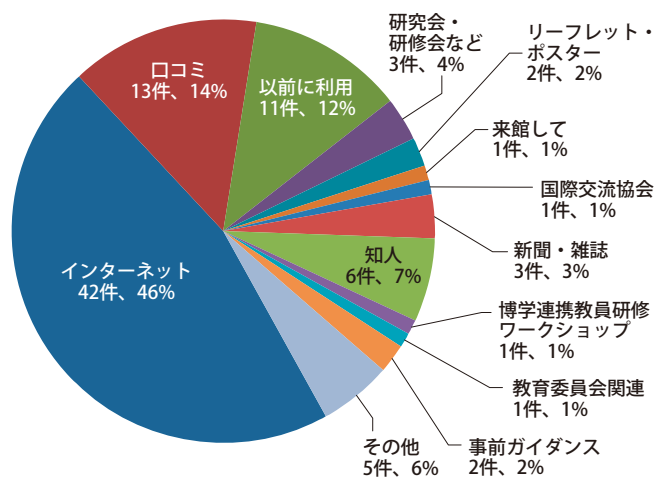
6) 年間スケジュールと月別貸出件数



※ 8月と3月はメンテナンスのため約2週間、貸出を休止しています。

- 例年通り、夏休みや春休みなど学校行事と重なる時期は利用件数が少ない。
- 2学期は学芸会や各種イベントが多いため10月と11月の利用件数が伸びた。
- 1月、2月は総合学習のまとめ学習などの機会が多い。

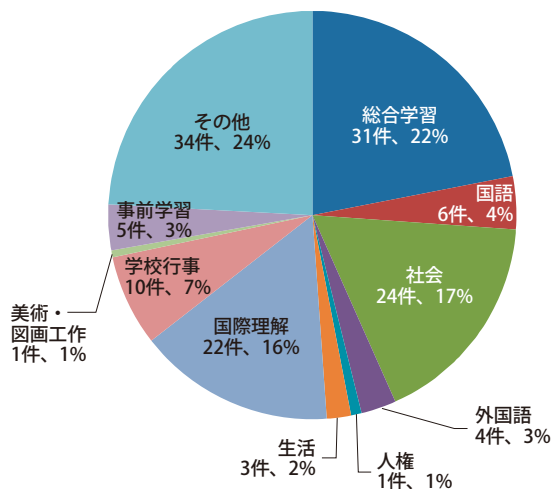
7) 「みんぱく」の認知媒体 (サンプル: 87件、複数回答あり)



● インターネットでの認知件数が46%で約半数を占めた。

● リピーターや先生同士の口コミが多く見られる。

8) 使用目的 (サンプル: 117件、複数回答あり)



- 「総合学習」「国際理解」が主であるが、文化祭での使用や、イベント展示の使用も多い。
- 国語の授業にて「モンゴル」が使用されるケースが増えている。
- 社会科での使用も増加。

9) 運用コスト

●衣装クリーニング代 ※	240,000	円
●資料補充・修理費	378,783	円
計	618,783	円

- 運用開始から10年を過ぎ、内容物の劣化が激しく修理・補充の機会が増えている。またパックの数も増加しているため予算額を前年度より増額している。今年度みんなの運用・保守費としてかかった費用は618,783円であった。

10) 新規もしくは改訂版制作したパック

改訂版「ソウルスタイル」2パック、新規「ソウルのこども時間」2パック

2) みんなパック利用者からの要望

- 古い資料を新しいものに交換してほしい。
- 大きいサイズ・小さいサイズの衣装の追加。
- 資料が多いのはありがたいが、扱いにくい。もうすこしコンパクトなものもあればよい。
- 衣装を着るときの順番・着方が詳しくわかるとよい。
- もう少し長く借りたい。

3) 平成24年度の取り組み

- 12種類22パックすべてのCO₂処理（3月）および衣装179点のクリーニング（8月・3月）
- 団体見学の下見来館者に対する「みんなの」案内（春・秋に行われるガイダンスにおいて）
- 改訂版「ソウルスタイル」、新規「ソウルのこども時間」の制作（平成24年度文化資源計画事業）
- ホームページ用モノ情報カードの統一作業
- ティーチャーズパックの整備（書籍のブックカバーなど）

4) 来年度以降の取り組み

- 「みんなっく改訂版『極北（仮題）』」の制作（文化資源プロジェクト）
- 「みんなっく改訂版『ジャワ（仮題）』」の計画（文化資源プロジェクト）
- 団体見学の下見来館者に対する「みんなっく」の案内（春・秋に行われるガイダンスにおいて）
- 現行パックの映像資料、モノ情報カード、フィールドアルバムなどの整備
- 現行パックの資料の補充・ストックの確保
- ストックの在庫管理・分類整理
- ホームページ用モノ情報カードの統一・更新

資料3. JICA との連携による博物館学コース

[概 況]

民博は、2004年度以降、独立行政法人国際協力機構（JICA）から全面的委託を受けて、滋賀県立琵琶湖博物館とともに、集団研修「博物館学コース」を企画・運営している。このコースの目的は、博物館運営に必要な、収集・整理・保存・展示・教育に関する理論と実践的技術の研修を実施し、博物館を通して途上国各国の文化振興に積極的に貢献できる人材を育成するものである。

研修は、大きく、博物館専門家としての知識や技術の習得、日本の博物館の経験や知識の共有、そして博物館専門家同士が、国を越えて、自由に経験や知識、問題点や課題の検討などができる、そうした「フォーラムとしての場」を設けることをねらいにしている。

開設以降、名称や内容を発展的に変更しながら継続してきており、2012年度からは、博物館資料の管理について保安や防災のカリキュラムを強化し、また、博物館の運営についても自らが立案し、実践・普及できるよう研修項目を増加して、観光関連分野との連携を視野に入れるなど研修内容を充実させ、名称も「博物館学」コースと改め、実施した。研修には、毎年、世界各国から約10名を受け入れ、研修期間は約4ヶ月間におよぶ。19年を経て、これまでに54ヶ国から196名の終了者が誕生し、研修参加者は世界各地の博物館や文化施設で活躍している。なお、受け入れ側の講師は、合計70名ほどで対応している。

2012年度は、9月17日の来日、オリエンテーション、健康診断などの後、共通プログラムと個別研修プログラムを含めた本コースが、9月20日から12月21日にかけて実施された。コースの参加資格は、原則として25歳以上45歳以下、大学卒業もしくは同等の学力を持ち、収集、ドキュメンテーション、保存、展示、教育などの博物館活動での実務経験を3年以上有し、研修内容を十分に理解できる英語能力を備えている者である。これらの条件を満たした、以下の7カ国から計10名が参加した。

エジプト	Mr. ABDELAAL Yasser Thabet Bakri アブデラルヤセルサベットバクリ	大エジプト博物館・保存修復センター
エジプト	Mr. ABDELWAHED Nasef Elsayed アブデルワヘッドナセフエルサイド	大エジプト博物館
エリトリア	Mr. KIFLEMARIAM Dawit Araia キフレマリアムダウィットアライア	エリトリア国立博物館
ヨルダン	Mr. AL-ZOU'BI Naser Shaher Azzam アルゾウビナセルシャヘルアッザ	ウムカイス考古学博物館
モーリタニア	Mr. Ahmed Yahya YOUMBABA アハメッドヤハヤヨウムババ	モーリタニア国立博物館

ペルー	Mr. SARA REPETTO Cesar Luis	レオンシオ・ブラド地域考古学博物館
ペルー	Ms. RIOFRIO FLORES Maria Del Pilar	リマ市文化局
ペルー	Ms. SANO TAKAHASHI Susy	リマ美術館
スリランカ	Ms. ALAHAKOON DASANAYAKA MUDALIGE W. K. K. A.	国家遺産省考古学局
スワジランド	Mr. DLUDLU Mabandla Jabulani	スワジランド国立博物館

[成果概要]

共通プログラム

共通プログラム（10週間）は、博物館活動全般を理解するための講義・実習（表参照）と研修旅行からなる。各講義には、各研修参加者の国や博物館の特徴、問題点などの紹介と討論の時間を含めるなど、講師や各研修参加者との相互交流・情報共有を図るための工夫を加えている。

2012年度の研修旅行は、東北、東京、広島、奈良であった。週末などに自主的に見学した博物館等を含めると、研修参加者は日本での研修期間中に多くの施設を訪れたことになり、これを通じて日本の博物館事情や文化を理解してもらった素地ができたものと考えられる。

研修参加者には、自国の博物館事情等を紹介するミュージアムレポート、自身の専門に関する専門レポート、研修期間の最後に帰国後の普及計画を発表するファイナルレポート（普及プログラム案）などの発表の場が用意された。専門レポートは、自身の専門について関連する講義の中で報告するもので、自身の経験と問題点を、他の研修参加者及び日本側の関係者が学び、相互に議論する好機となった。また、ファイナルレポートでは、各研修参加者は、制度的・予算的に実現可能な普及プログラム案の策定に取り組み、本コースの成果が母国に順次、普及されることが期待できる内容であった。JICAでは、研修終了から半年以内にその成果や進捗状況を検証することとなっている。

2012年11月4日には、民博において、ミュージアムレポートをさらに一層、展開させた公開フォーラム「世界の博物館2012」が開催された。一般参加者58名と関係者26名、計84名の人が集い、普段なかなか知る機会のない、7カ国の博物館事情に関する報告を聞くことができた。この公開フォーラムは、また、終了後に開かれた交流会とともに、研修参加者と一般の人びとや博物館関係者、学生が直接、交流できる貴重な場となった。

表 共通プログラムの内容

項 目	詳 細
(1)博物館学総論	日本での博物館制度
	博物館と文化表象
	博物館と観光
	文化の展示の現在
	メディアと博物館
	文化行政と文化財保護政策
	知的財産権

(2)収集・保存	資料整理と利用
	情報の利用とそのための施設
	データベース
	映像記録（取材から番組制作まで）
	博物館における環境
	保存と修復1（民族誌資料と歴史資料）
	保存と修復2（考古資料）
	危機対策、災害対策
	保安、防災、防犯
	輸送と梱包
	映像資料の管理（マルチメディアを含む）
(3)展示	博物館の建築
	常設展示―設計
	常設展示―ディスプレイ
	特別展示―設計
	特別展示―ディスプレイ
	近隣の博物館の見学
	モデル作成―目的と設計
(4)社会連携	教育活動
	市民サービス、利用者交流
	評価（来館者調査）
	博物館とバリアフリー
	歴史教育と博物館
(5)運営	博物館の運営
	博物館とマーケティング
	売店経営、商品開発
	文化遺産と開発
(6)普及プログラム	

個別研修プログラム

後半に設定された3週間の個別研修プログラムでは、研修員は、週ごとに希望の研修を選択する。このプログラムは専門性が高く、多くの機関の協力も得ながら実施した。いずれのプログラムも研修員の満足度は高く、個別研修期間の延長を求める意見も聞かれた。

テーマは、予防保存、写真撮影、資料の保存と修復、博物館と地域コミュニティー、民族誌映像の撮影と編集、考古資料の発掘と保存管理、地域歴史博物館の活動、展示デザイン、景観模型製作の9テーマである。

「博物館学コース」は、博物館学を包括的に取り扱う研修となっていて、世界的にも類を見ない特徴のあるコースであり、研修参加者からの評価は高いので、内容の充実をはかりながら、今後も組織的に継続していきたい。

〔国際的なネットワーク〕

「博物館学コース」（2012年度、1回実施）と、その前身である「博物館学集中コース」（2004～2011年度、8回実施）、さらにその前進となる JICA「博物館技術（収集・保存・展示）研修コース」（1994～2003年度、10回実施）の修了者は、JICA 研修参加者170名、民博の外来研究員26名、あわせて196名に達している。民博にとって貴重な財産といえる海外博物館とのネットワークが、2012年度の研修によりさらに充実した。

なお、本コースのニュース・レターとして2013年1月に発行した下記の刊行物に、より詳細な記録が掲載されている。

Steering Committee for the Comprehensive Museology Course, Museum Co-operation
2012: Newsletter of the Comprehensive Museology Course, National Museum of Ethnology,
Japan, 2012.

（小林繁樹・博物館学集中研修専門部会長）



国立民族学博物館

音楽の祭日2012 in みんなぱく

7/1 日 10:15 ~ 16:45 (開場10:00)

無料観覧日 (本館展示場入館は16:30まで)

※自然文化園を通行される場合は入園料 (大人250円、小・中学生70円) が必要です。
※公園東口駅下車、日本庭園前ゲート右側のみんなぱく専用通行口からは無料で来館することができます。

主催：国立民族学博物館 主管：音楽の祭日日本事務局

7/1 (日)
開催

音楽の祭日 2012 in みんなぱく

音楽の祭日とは

1982年にフランスで、夏至の日にみんなで音楽を楽しむ「音楽の祭日」がはじまりました。それは、今、世界各地に広がっています。日本でも、その趣旨に賛同する人びとの呼びかけで、2002年から「音楽の祭日」がスタートしました。音楽の祭日は夏至(6月21日)およびその前後の日に開催されますが、今回はみんなぱくでは7月1日(日)に開催いたします。

*日本事務局 <http://www.mediatv.ne.jp/ongakunosajitsu/>

プログラム

会場：特別展示館

10:15～10:30 開会式

- 10:30～10:55 笛星(ふえすた)**
岸和田だんじり祭りの祭りばやしを小中学生で演奏。
- 10:55～11:20 小江南曲社**
茶館などでよく演奏されている、中国江南地方の民間管弦音楽「江南絲竹」のアンサンブル。
- 11:20～11:45 プラクルティとプリヤーシャ**
タブラーとともに、インド映画で使われている音楽とバングラデシュの民謡に合わせた踊り。
- 11:45～12:10 オカリナアンサンブル♪ミラクル**
イタリア発祥のオカリナで馴染みのある曲をアンサンブルで演奏。
- 12:10～12:35 グルーボ福袋**
南米アンデスの民族音楽「folklore」。

12:35～12:45 休憩

- 12:45～13:10 神戸インドネシア友の会「KIS アンクルン」**
インドネシアの竹製民族楽器「アンクルン」の演奏。
- 13:10～13:35 Pulse**
打弦楽器ダルシマーを用いたクラシック・アイリッシュ演奏。
- 13:35～14:00 Sol de las Indias**
ボリビアの民族音楽「folklore」に合わせて、ダンスを踊る。
- 14:00～14:25 ENGINES**
極東からバルカン半島、中央ヨーロッパのポピュラー音楽を選曲し、演奏。
- 14:25～14:50 道後の杜二胡アンサンブル**
中国の民族楽器「二胡」のアンサンブルで、いろいろなジャンル曲を演奏。

- 14:50～15:15 choo-san(チューサン)**
ジャマイカ生まれの音楽レゲエのリズムにのせ、懐かしいフォークの名曲を日本語で歌う。
- 15:15～15:40 unit K&K**
太鼓と琵琶・尺八・能管などのコラボレーション。
- 15:40～16:05 バンチャ パリワール**
ネパールの民族楽器を使ったネパール音楽の演奏。
- 16:05～16:30 神奈川馬匠と締組**
和太鼓のオリジナル曲を演奏。

16:30～16:45 閉会式

会場：本館 1F エントランスホール

- 11:00～11:30 パシール・ビンタン**
インドネシア・西ジャワの竹の民族楽器アンクルンのアンサンブル。
- 11:30～12:00 平澤翔**
数種類の鼻笛の演奏。
- 12:00～12:30 SWEET HARMONY(スウィートハーモニー)**
シルク・ロードに乗って伝えられ融合された西洋文化と東洋文化の精華である歌曲の代表曲を演奏する。
- 12:30～13:00 スワ・ギタ・ブルティウィ・ジャパン、バドマ・サリ、チャンドラ・バスカラ**
バリ島の舞踏と音楽(バリ・ガムラン)。
- 13:00～13:30 Samurai Celt mine**
フルート、フィドル、ウッドベース、カホン等の木製楽器で奏でる和製ケルティック音楽。
- 13:30～14:00 ピアノとピアノカ**
ピアノとピアノカによる演奏。
- 14:00～14:30 地球おはなし村おながく畑**
西アフリカの太鼓「ジェンベ」を用いた音楽。
- 14:30～15:00 ダルマ・ブダヤ**
インドネシア・ジャワのガムラン古典曲、およびガムラン楽器によるオリジナル曲。

*出演者や演奏時間は変更する場合があります。
*入退場合わせての時間です。

交通のご案内

*国立民族学博物館(みんなぱく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。
「みんなぱく」とは大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立民族学博物館の愛称です。

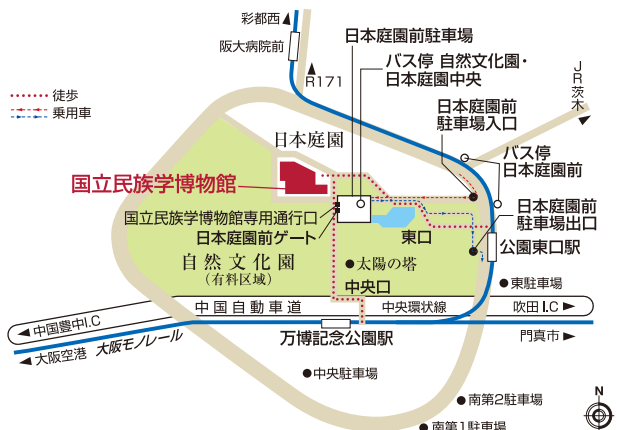
- 大阪モノレール
「万博記念公園駅」下車、徒歩約15分
(自然文化園を通行される場合は、入園料が必要となります。)
「公園東口駅」下車、徒歩約15分
(「公園東口駅」からは自然文化園を通行せずに来館できます。)
- バス
[近鉄バス] (阪大本部前行き) 阪急茨木市駅から約20分、J R茨木駅から約10分
「日本庭園前」下車、徒歩約15分
[阪急バス] (万博記念公園駅経由千里中央行き) 阪急茨木市駅から約20分、J R茨木駅から約10分
「自然文化園・日本庭園中央」下車、徒歩約5分
- タクシー
万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。下車、徒歩約5分
- 乗用車
駐車施設がないため「みんなぱく」への車の乗り入れはできません。万博記念公園の駐車場(有料)をご利用ください。最寄り「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分
*「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある国立民族学博物館専用通行口をお通りください。

お問い合わせ先

国立民族学博物館 情報企画課

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
電話: 06-6878-8532 FAX: 06-6878-8242
受付時間: 平日午前9時00分～午後5時00分
(土・日・祝日は問い合わせの受付はできませんのでご了承ください。)
<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんなぱく
携帯
サイト



「音楽の祭日2012 in みんなく」報告書

平成24年7月1日(日)、国立民族学博物館で主催した「音楽の祭日2012 in みんなく」について下記のとおり報告します。

記

1. 日時【天候】 平成24年7月1日(日)無料観覧日 10:15～16:45【雨時々曇り】
2. 実施場所 特別展示館および本館エントランスホール
3. 参加人数 特別展示館 のべ1523名、エントランスホール のべ1600名
4. 出演者人数 170名(22グループ)
5. 民博側担当 教員4名、広報企画室3名、情報企画課8名、機関研究員2名
6. アルバイト 総合研究大学院大学生 (当日)運搬・搬入・会場撤収:3名
7. 外部委託 特定非営利活動法人 人文力 (当日)運搬・搬入・会場撤収:3名
(株)アーチェリープロダクション
(6月29日)機材設営:4名 (当日)音響・照明調整:6名
(株)西岡印刷所 チラシ印刷14000部
8. 費用 619千円
＜内 訳＞
特定非営利活動法人 人文力 90千円
アルバイト謝金 23千円
(株)アーチェリープロダクション 400千円
(株)西岡印刷所(印刷のみ) 100千円
制服クリーニング 6千円

9. 趣旨

「音楽の祭日」は、1982年にフランスで生まれた「音楽の祭典」を原型に、毎年、夏至の日々を中心に世界的に開催される行事で、わが国でも2002年から日本事務局が中心となって文化復興及び国際交流を目指して各種の文化施設で参加費無料の音楽会などが開催されてきた。民博では、「音楽の祭日」の趣旨に賛同し、社会連携の一環として、音楽家または音楽グループに博物館を開放することを目的としてイベント「音楽の祭日2012 in みんなく」を開催した。なお、民博における「音楽の祭日」の開催は、2003年以来通算10回目となり、当日はラジオの生放送が入るなど広報の機会が増え、事前の問い合わせも多かった。

10. 実施概要等

昨年と同様、特別展示館(約300席)およびエントランスホール(約150席)をメイン会場とした。応募があった出演音楽家・音楽団体22グループすべて参加し演奏をおこなった。特別展示館の音響・照明およびエントランスホールの一部照明については、専門業者が担当した。途中、けが人2名と体調不良でソファで休まれる来館者があり、担当者が対応した。あいにく雨の一日であったが、特別展示館、エントランスホールとも終始ほぼ満席の状態となり、立ち見の参加者もみられた。

11. 当日の様子



以上

展示分野

資料1. 文化資源プロジェクト（機関）

本館展示新構築

平成24（2012）年度は、平成20年度から開始された本館展示新構築の第5年次にあたり、本年度は、日本文化の展示のうち、「祭りと芸能」「日々の暮らし」のセクションの展示を新たに構築し、平成25年3月に一般公開した。

資料2. 特別展（文化資源プロジェクト）

1. 特別展「今和次郎 採集講義——考現学の今」

2012年4月26日～6月19日

主 催：国立民族学博物館

実行委員長：久保正敏（文化資源研究センター）

実 行 委 員

〔館 内〕 朝倉敏夫（文化資源研究センター）、飯田卓（民族社会研究部）、小林繁樹（文化資源研究センター）、近藤雅樹（民族文化研究部）、佐藤浩司〔民族社会権休部〕

〔館 外〕 岡本信也（野外活動研究会）、岡本靖子（野外活動研究会）、荻原正三（工学院大学）、黒石いずみ（青山学院大学）、小山茂樹（有限会社ブックポケット）、高橋晴子（大阪樟蔭女子大学）、横川公子（武庫川女子大学）

考現学の創始者・今和次郎（こん わじろう）の事跡と、その考現学を受け継いで民博で展開されてきたさまざまな研究に焦点を当て、モノに着目して身近な風俗の一切を丸ごと記録することの意味とその成果を検証した。

2. 特別展「世界の織機と織物——織って！みて！織りのカラクリ大発見」

2012年9月13日～11月27日

主 催：国立民族学博物館

実行委員長：吉本忍（民族文化研究部）

実 行 委 員

〔館 内〕 上羽陽子（文化資源研究センター）

〔館 外〕 金谷美和（国立民族学博物館外来研究員）、井関和代（大阪芸術大学）、内海涼子（大阪成蹊大学）、大野木啓人（京都造形芸術大学）、ひろいのおこ（京都市立芸術大学）、藤井健三（西陣織物館）、柳悦州（沖縄県立芸術大学）

本展示では、世界各地で収集された織機と織物の展示を通じて、織りの技術、織機構造のカラー、織物の実像などをあきらかにすることをめざした。この展示は、世界各地で今日まで継承されてきたさまざまな織りの技術を総覧する、世界的に見てもはじめての機会となった。

資料3. 企画展（文化資源プロジェクト）

1. 企画展関連写真展「写真で見る東日本大震災と被災文化遺産のレスキュー」

2012年5月31日から8月21日

実行委員長：日高真吾（文化資源研究センター）

実行委員

〔館内〕 林 勲男（文化資源研究センター）、吉田憲司（文化資源研究センター）

〔館外〕 小池淳一（国立歴史民俗博物館）、青木 睦（国文学研究資料館）

企画展（連携展示）「記憶をつなぐ——津波災害と文化遺産」のプレ展示として、後に同企画展で展示することになる写真パネルを展示して、展開中の被災文化遺産のレスキュー活動を同時進行的に紹介した。

2. 企画展（連携展示）「記憶をつなぐ——津波災害と文化遺産」

2012年9月27日～11月27日

主催：国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館

実行委員長：日高真吾（文化資源研究センター）

実行委員

〔館内〕 林 勲男（文化資源研究センター）、吉田憲司（文化資源研究センター）、
園田直子（文化資源研究センター）

〔館外〕 小池淳一（国立歴史民俗博物館）、青木 睦（国文学研究資料館）、
小谷竜介（宮城県教育委員会）、木暮 亮（石巻市教育委員会）、
熊谷 賢（陸前高田市立博物館）、鎌田 勉（岩手県教育委員会）、
目時和也（岩手県立博物館）、橋本裕之（追手門大学）

資料4. 企画展（文化資源計画事業）

1. 年末年始イベント「へび」

2012年12月15日～2013年1月31日

プロジェクト・リーダー：小林繁樹（文化資源研究センター）

プロジェクト・メンバー：日高真吾（文化資源研究センター）

上羽陽子（文化資源研究センター）

伊藤敦規（文化資源研究センター）

2013年の干支である「巳（み、へび）」に因む資料を民博の所蔵資料の中から選び、本館展示場内に展示し、「へび」にまつわる文化の解説を行った。また、展示活動研修会の受講生が撮影した写真パネルを企画展示場Bに展示した。

2. 共催展示「国立民族学博物館コレクションによるビーズ・イン・アフリカ」展

2012年8月4日～10月21日

神奈川県立近代美術館

プロジェクト・リーダー：池谷和信（民族社会研究部）

プロジェクト・メンバー：吉田憲司〔文化資源研究センター〕

国立民族学博物館所蔵のアフリカのビーズ細工250点を通じて、アフリカのビーズのアートとしての豊かな世界を、その文化的背景を踏まえつつ紹介する展示を、神奈川県立近代美術館・葉山で同館主催、民博共催のかたちで開催した。

資料5. 特別展・企画展の準備（文化資源プロジェクト）

1. 特別展「マダガスカル 霧の森の暮らし」

2013年3月14日～6月11日（予定）

実行委員長：飯田卓（民族社会研究部）

実行委員

〔館内〕 上羽陽子（文化資源研究センター）、川瀬 慈（文化資源研究センター）

〔館外〕 朝岡知子（朝岡工房）

岩谷洋史（国立民族学博物館外来研究員）

大貫美佐子（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）

佐藤優香（東京大学）

特別展「マダガスカル 霧の森の暮らし」開催のために必要な打ち合わせをおこなうとともに、大英博物館とアンタナナリヴ大学からの資料借用をおこなった。また、関連図録の編集と展示設計、広報印刷物の印刷をおこなった。展示施工は平成25年2月末に、開幕式典は3月13日におこなう。

2. 特別展「渋沢敬三記念事業 屋根裏部屋の博物館 Attic Museum」

2013年9月19日～12月3日（予定）

実行委員長：近藤雅樹（民族文化研究部）

実行委員

〔館内〕 飯田卓（民族社会研究部）、太田心平（研究戦略センター）

〔館 外〕 井上潤（渋沢史料館）、齋藤純（天理大学）、佐野賢治（神奈川大学）、
武田晴人（東京大学）、宮本瑞夫（宮本記念財団）、吉田晶子（関西大学）

特別展「渋沢敬三記念事業 屋根裏部屋の博物館 Attic Museum」開催にむけて実行委員会をたちあげ、企画案を練るとともに、資料の選定を進めて基本設計図面を作成した。また借用資料の現地調査と出品交渉をおこなった。カタログ製作について出版社と交渉を進めた。

3. 国際連携展示「台湾平埔族の歴史と文化」

2013年9月12日～11月26日（予定）

国立台湾歴史博物館 特別企画展示「看見平埔：臺灣平埔族群歴史與文化特展」

2013年3月22日～8月4日〔予定〕

プロジェクト・リーダー：野林厚志

国立台湾歴史博物館との共催による国際連携展示「台湾平埔族の歴史と文化（中国語標題「看見平埔：臺灣平埔族群歴史與文化特展」）」の国立民族学博物館での実施。先行して開催する国立台湾歴史博物館の展示会の内容を日本の観覧者に合わせたかたちで再編した展示会を平成25年度に実施する。

資料6. 巡回展（文化資源計画事業）

1. 「マンダラ——チベット・ネパールの仏たち」

石川県立歴史博物館

会 期：2012年7月14日～9月2日

主 催：石川県立歴史博物館・国立民族学博物館・千里文化財団

プロジェクト・リーダー：南 真木人（文化資源研究センター）

平成15（2003）年に民博で開催した同名の特別展を再編して公開したものである。

2. 機構連携展示「記憶をつなぐ——津波災害と文化遺産」

国文学研究資料館

会 期：平成25年1月30日～3月15日

主 催：国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館

実行委員長：日高真吾（文化資源研究センター）

実 行 委 員

〔館 内〕 林勲男（文化資源研究センター）、吉田憲司（文化資源研究センター）、
園田直子（文化資源研究センター）

〔館 外〕 小池淳一（国立歴史民俗博物館）、青木睦（国文学研究資料館）

民博で開催した人間文化研究機構連携展示・企画展「記憶をつなぐ——津波災害と文化遺産」を国文学研究資料館で巡回・公開したものである。

資料7. その他の文化資源プロジェクト

1. 多機能端末室における新型ビデオテークについての検討

プロジェクト・リーダー：福岡 正太（文化資源研究センター）

多機能端末室に導入すべき新型ビデオテークの機能およびコンテンツについて検討するため、専門家の意見を聞くと共に、新しいコンテンツの試みとして、特別展や企画展等の記録映像のマルチメディアコンテンツ化を進め、公開に向けて問題点の整理を行った。

2. 次世代映像検索システムのプロトタイプの開発

プロジェクト・リーダー：福岡 正太（文化資源研究センター）

本プロジェクトでは、ビデオテークを対象にし、次世代の検索方法の充実を図り、ユーザ（来館者だけでなく研究者）のニーズに即した形で、映像検索の方法の課題を検討した上で、検索システムの方向性を提案し、プロトタイプの開発を行った。

3. 次世代みんなく電子ガイド開発のための実験

プロジェクト・リーダー：福岡 正太（文化資源研究センター）

他機関での携帯端末の活用事例の調査や、既存のコンテンツを用いたプロトタイプの開発実験等を通して、次世代のみんなく電子ガイドに求められる要件について検討した。

具体的には、既存の情報コンテンツ（みんなく電子ガイドのコンテンツ）、新規に作成した情報コンテンツを利用し、数種類の情報提供システムを試験的に構築した。これらは、前年度の検討を踏まえて、携帯情報端末（iPod touch、Android など）で動作するWEBベースのものである。とりわけ、本年度は、本館展示場で無線LANの設備が導入されたこともあり、新規に電子ガイド用専用サーバー（サーバー環境：Mac OS X server）を構築し、実際、展示場での試験的な運用を試み、展示場内での情報提供をするにあたっての可能性や課題を整理した。

4. アメリカ及びヨーロッパ展示に関わるみんなく電子ガイド用コンテンツの製作

提 案 者：福岡正太 文化資源研究センター

事業の概要：平成22年度及び平成23年度に行われた、アメリカ展示及びヨーロッパ展示の新構築に対応するため、みんなく電子ガイドのコンテンツ（日本語版、英語版、中国語版、韓国語版）を製作した。平成24年10月に日本語版を、平成25年3月にその他の言語のバージョンを公開した。コンテンツ数は、アメリカが27本、ヨーロッパが12本となる。

5. 中央・北アジア展示新構築事前調査

提 案 者：佐々木史郎 先端人類科学研究部

事業の概要：平成24年1月20日と平成24年11月22日に文化資源共同研究員を招集して打ち合わせを行った。平成23年度に基本方針を検討し、収蔵庫に入って、収蔵資料の確認を行い、平成24年度には展示場を見ながら、展示の基本構造を話し合い、それに基づいて必要な資料の種類を割り出し、来年度の資料購入計画を策定した。

資料8. その他の文化資源計画事業

1. オセアニア展示の部分改修

プロジェクト・リーダー：ピーター・マシウス（民族社会研究部）

平成23年度に新たに構築したオセアニア展示場につき、来観者の反応に関する調査の結果を踏まえて、提供する情報の充実、展示方法の改善を図った。

2. アメリカ展示の部分改修

プロジェクト・リーダー：関雄二（研究戦略センター）

平成23年度に新たに構築したアメリカ展示につき、来観者の反応に関する調査の結果を踏まえて、展示にこめたメッセージがより効果的に来館者に伝わるようにすることを目的として、展示の一部手直しを行った。

3. 韓国国立民俗博物館「アリラン展」の開催とその準備

提 案 者：朝倉敏夫 文化資源研究センター

事業の概要：韓国国立民俗博物館で平成24年度に開催された「アリラン展」の世界巡回展示の一環として本館において平成25年5月から企画展（国際連携展示）を開催するための準備作業を行なった。

2012年

4月26日(木)～6月19日(火)

会場・特別展示館

開館時間・午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日・水曜日 無料観覧日・5月5日(土・祝)

観覧料・一般 420(350)円、高校・大学生 250(200)円、
小・中学生 110(90)円 * ()は、20名以上の団体料金、大学等の授業でこ
利用の方、授業レポート等の作成を目的とする高校生、3ヶ月以内のリピーター、満65歳
以上の方の割引料金(要証明書等)。大学等は、短大・大学・大学院、専修学校の専門課程
主催・国立民族学博物館 特別協力・工芸院・大学図書館 協賛・財団法人千里文化財団
後援・社団法人日本建築学会 社団法人日本建築家協会 社団法人全日本建築士会、
日本生活学会 日本民俗建築学会 協力・青森県立美術館、ナノリンク 沙留ミレーン、
株式会社青森スタジオ 株式会社商華堂、日本万国博覧会記念機構

国立民族学博物館



人のくらしの
一切しらべ

“Modernology” Now! Kon Wajiro's
今 和次郎
採集講義
…考現学の今

〔特別展〕

Science of the Present

街中の今和次郎

今和次郎「吉田謙吉銀座のカフェー服装採集」1926年 工芸院大学図書館所蔵



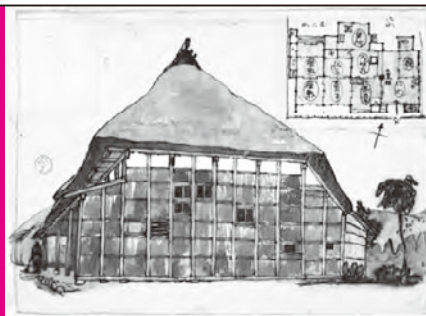
①「渡辺基吉邸の椅子」1934年頃 早稲田大学
理工学術院創造理工学部所蔵



②「配列された植木鉢(東京府西多摩郡日原)」1922年



③「新時代の生活方向 家庭の各員の生活マ
デノ線を防備しませう ② 主人」1940年

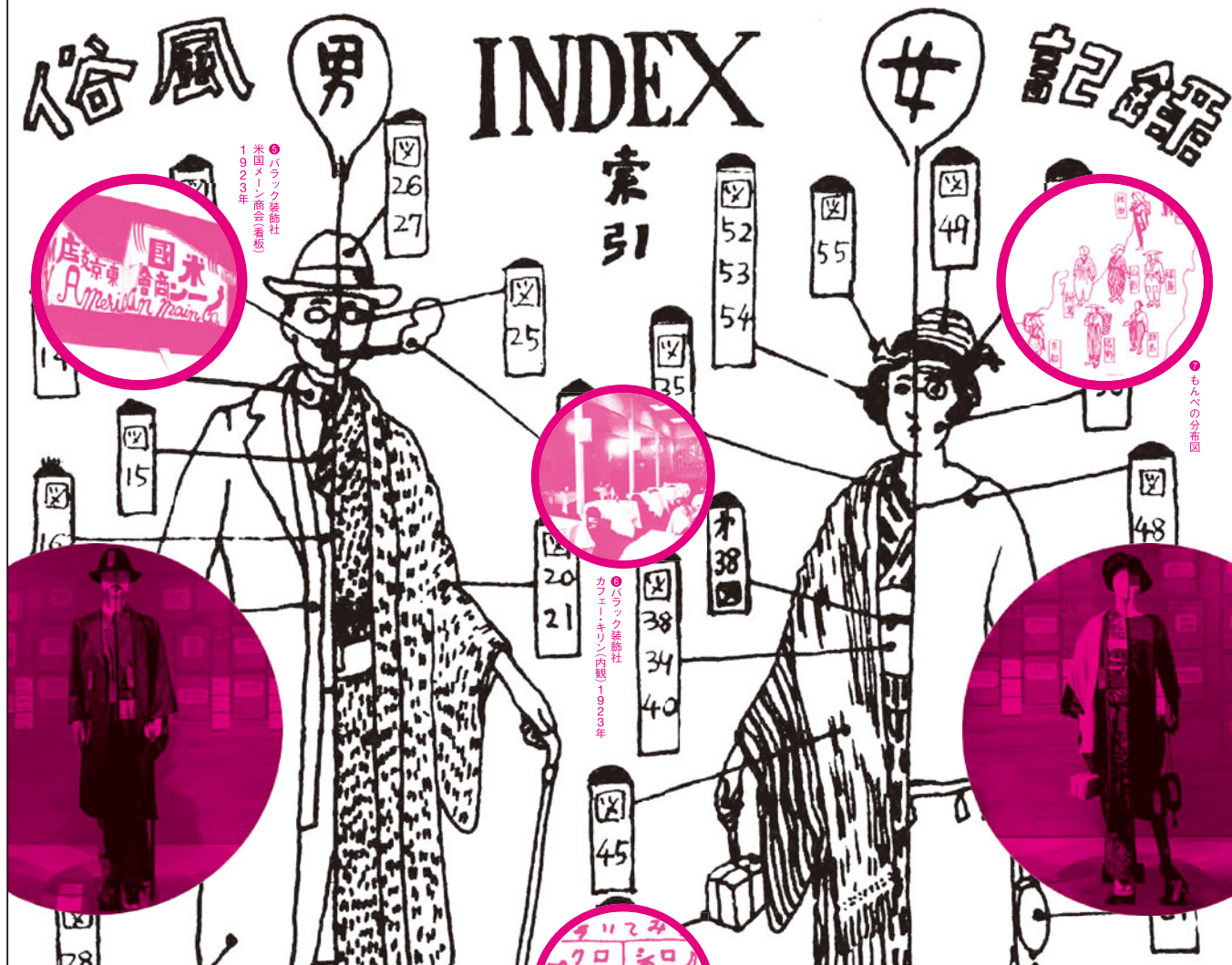


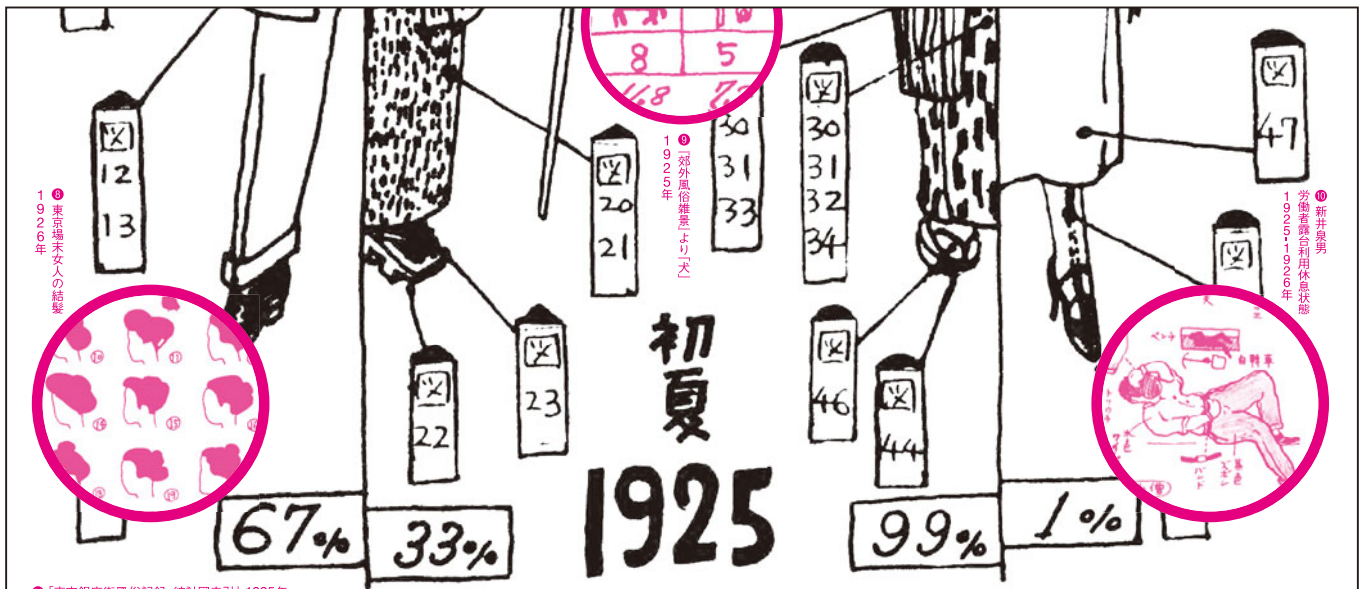
④「雪に埋もれる山の村の家(新潟県中頸城郡関川)」1917年

青森県弘前市に生まれた今和次郎(1888-1973)は、昭和初期の急速に大都市化していく東京の街の様子や人々の生活の変化を採集(観察し、記録する)・分析した「考現学」の創始者として知られています。また、民俗学者の柳田國男らがつくった民家研究会の「白茅会」の活動に参加したことをきっかけにはじめた民家研究の分野でも重要な足跡を残しました。

一方、関東大震災直後の街頭に出て、急ごしらえのバラック建築をペンキで装飾した「バラック装飾社」の活動や積雪地方の暮らしを快適にするための試み、村の共同作業場の設計などに携わった建築家・デザイナーでもありました。さらに戦後になると、日常生活を考察する「生活学」や「服装研究」といった新しい学問領域も開拓していきます。こうした幅広い領域にわたる活動の根底には、都市と地方を行き交いながらさまざまな暮らしの営みを「ひろい心でよくみる」ことをとおして、これからの暮らしのかたちを、今を生きる人々とともに創造しようと模索し続けた今和次郎の生き方がありました。

「今和次郎 採集講義」展は、工学院大学図書館の今和次郎コレクションに所蔵される膨大かつ多彩な資料を中心に、スケッチ、写真、建築・デザイン図面等をおして今和次郎のユニークな活動を紹介する初の本格的な回顧展です。青森県立美術館、パナソニック汐留ミュージアムで開催されたこの展示の資料に加えて、みんぱくの考現学的な調査記録と資料を展示するのが、特別展「今和次郎 採集講義―考現学の今」です。





①「東京銀座街風俗記録 統計図索引」1925年
立体模型 [制作: NECT design (CHONO), 2011年]

●「関連イベント」

- みんなくゼミナール
「今和次郎 採集講義と日常生活文化研究の現在」
講師：萩原正三、黒石いずみ、横川公子、佐藤浩司
5月19日(土) 13時30分～15時
- 「生活財の考現学」
高度経済成長期の家庭景観
講師：栗田靖之、疋田正博
6月16日(土) 13時30分～15時
- みんなく映画会
「記録映画 昭和の家事」
解説：小泉和子 司会：佐藤浩司
6月3日(日) 13時30分～16時
- ワークショップ
「みんなくで考現学的パワースポットを探そう」
講師：久保正敏
5月6日(日) 10時30分～12時
5月6日(日) 10時30分～12時
「みんなくを飛び出してモノ調べ風景調べ」(要申込)
講師：岡本信也、岡本靖子 司会：久保正敏
1回目：5月27日(日) 10時30分～12時
2回目：6月9日(土) 11時～14時30分
- シンボジウム
「今和次郎が調査した民家の今」
渥青会による『日本の民家』再訪プロジェクト
講師：中谷礼仁、石川初、御船達雄、菊地晩
コメンテーター：黒石いずみ、杉本尚次
6月9日(土) 15時～16時30分
- みんなくウィークエンド・サロン！研究者と話そう
4月29日(日) 飯田卓 5月6日(日) 近藤雅樹
5月13日(日) 岩城晴貞、朝倉敏夫
5月20日(日) 佐藤浩司
5月27日(日) 横川公子、久保正敏
6月3日(日) 久保正敏 6月10日(日) 杉本尚次
6月17日(日) 高橋晴子、久保正敏
※6月3日(日)は11時～12時
そのほかは14時30分～15時30分
- ギャラリートーク
※詳細はホームページをご覧ください

1926 無産者児童冬の服装調査 下着女子 上着 10才以上

Modernology Now: Kon Wajiro's Science for the Present

今和次郎 採集講義
「特別展」
……考現学の今

②～⑫ 工学院大学図書館所蔵

⑬ 新井泉男 帝大セツルメント児童服装調査 女子 1926年

「今和次郎とみんなく」
今和次郎が長野県諏訪郡で収集した資料みんなく所蔵と収集時のスケッチ(工学院大学図書館所蔵)

「笠」

今和次郎の残したスケッチやノートなどは、庶民生活への暖かい眼差しが窺える解説や数量化を含んだスケッチなど、魅力的な図表の表現に特徴があります。考現学の手法と対象は民族学とよく似ており、みんなく初代館長の梅棹忠夫も、考現学的調査に触発されてモンゴルなど海外調査の記録を数多く残しています。その後のみんなくも研究者にも考現学の遺伝子は引き継がれ、モノ調査とインタビュー調査を組み合わせた文化研究、映像による記録、データベースによる分析など新しい調査手法を取り入れ、さまざまな研究成果をあげてきました。この研究成果を示す展示では、モンゴルのゲルの家財に関する梅棹忠夫と最新の調査との比較、京都の町家暮らしの家財道具一式である大村しげコレクション調査の一端、考現学創始当時の洋装、そしてみんなく開館当時に行われた民家模型製作のための民家調査資料など、みんなくで進められてきた様々な資料や研究を紹介します。

銭湯で見た
下着

岡本信也・岡本靖子作



田中千代
コレクションから

昭和初期のエレベーター係の制服
(右)三越百貨店 (左)大丸百貨店



考現学と
みんなく

世界の“今”の
一切しらべ
明日のくらしのために



和崎洋一スケッチ
1944年のゲル

モンゴルのゲル

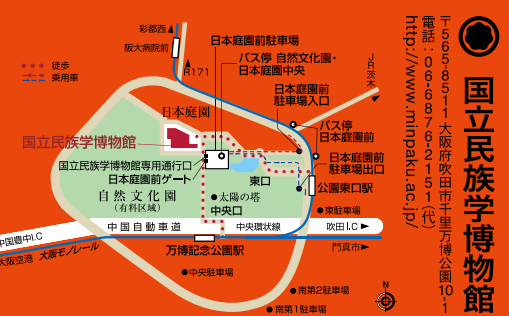
日本民族博物館
鳥瞰図

大村しげ
の暮らし
ナカノマ



堀田あゆみ撮影
2011年のゲル

●大阪・万博記念公園内
●大阪モノレールで万博記念公園駅・公園東口駅下車、徒歩約15分
●阪急東宝市駅・日栄木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで日本庭園前下車、徒歩約15分(淡木方面から、自然文化園・日本庭園中央・経由のバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。)
●自家用車の場合は、万博記念公園の日本庭園前駐車場(有料)から徒歩約5分
●タクシーは、万博記念公園の日本庭園前駐車場まで乗り入れます。日本庭園前駐車場を利用される方は、日本庭園前ゲート横にある国立民族学博物館専用通行口をお通ください。
●自然文化園(有料)区域を通行される場合は、同園の入園料(大人250円/小学生70円)が必要です。ただし、大阪モノレール公園東口駅からは自然文化園(有料)区域を通行せずに来館できます。

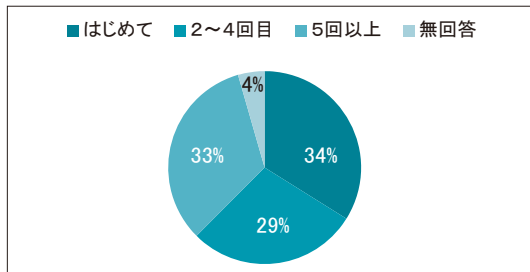


今和次郎作
1936年頃
工學院大学図書館蔵

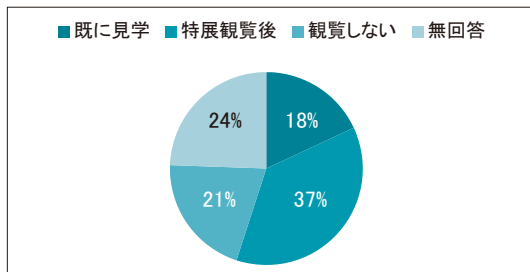
特別展「今和次郎 採集講義——考現学の今」 アンケートグラフ

○アンケート回答数 160件

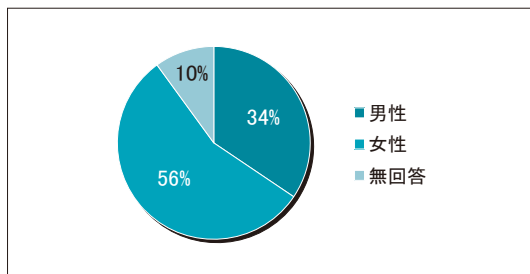
来館回数



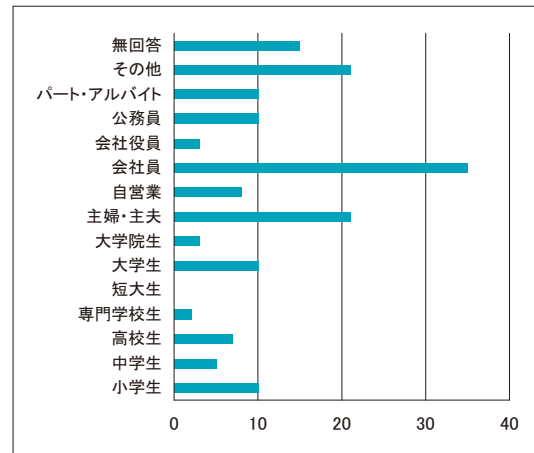
本館展示の観覧について



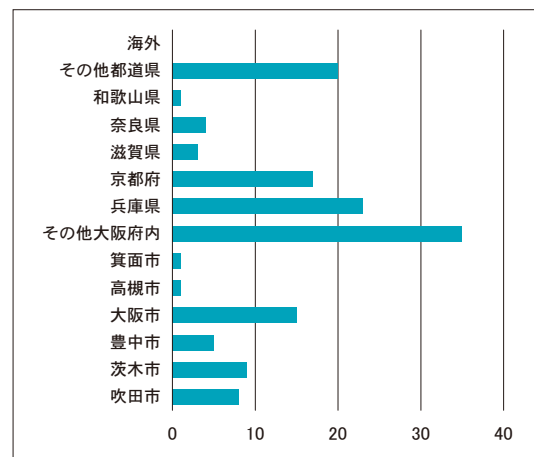
性別（男女比）



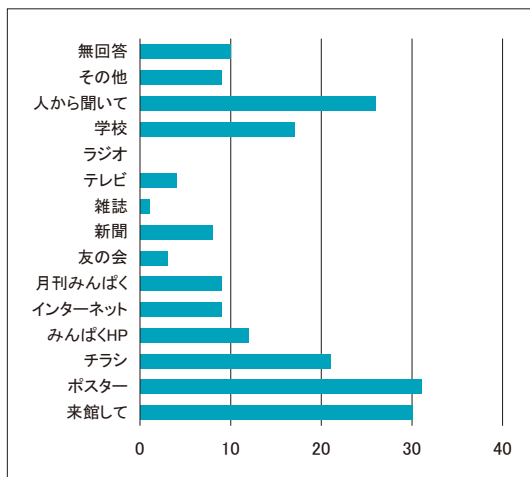
職業



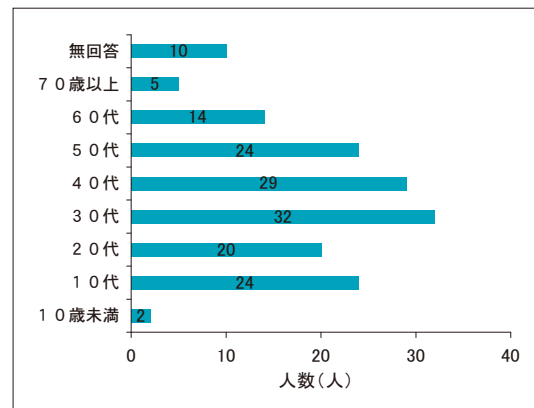
どこから来られましたか？



特別展を知ったのは（複数回答）



年代別



世界の織機と織物

特別展

織って！みて！

織りのカラクリ大発見

織りの技術は人類史の中枢技術です。

新石器時代に始まる織りの技術の延長線上には、

産業革命やIT革命があります。

世界の織機と織物が展示されている

「みんなく」の特別展で、

織って！みて！

「張力をそなえたタテ糸にヨコ糸を組み合わせる」という、

単純にして複雑な織りのカラクリのすべてを

あなたも体験してください。

2012年9月13日(木) — 11月27日(火)

[開館時間] 午前10時 — 午後5時 (入館は午後4時30分まで) [休館日] 水曜日 [主催] 国立民族学博物館

[無料観覧日] 9月15日(土)・9月17日(月・祝)・11月3日(土・祝)・11月17日(土)・11月18日(日)

 国立民族学博物館

関西から
文化力
POWER OF
CULTURE



世界の織機と織物—織って！みて！織りのカラクリ大発見 関連イベント（くわしくはホームページをご覧ください）

「織って！みて！」 織物は人のからだや簡単な道具だけでなく織ることができず。 実際に織って！みて！ 手仕事の不思議にふれてみませんか。	体験ひろば《展示場で織りの技術を体験しましょう》			
	期間中常設	織機とその仕掛けをわかりやすく理解できる体験スペースを用意しました。 体験をとおして織りのカラクリを発見してください。		
	ワークショップ《実際に作って、触って、動かして、織りや糸の仕組みをさぐりましょう》			
9月	16日(日)	13:00～16:00	アシャンティ機で、西アフリカの細幅木綿を織る	井関和代
	22日(土)	13:30～16:30	沖縄のよしず作りの方法でコースターを織ってみよう	柳 悦州
	30日(日)	午前、午後2回	絹糸ってどんな糸？	行松啓子
10月	6日(土)	10:30～16:30	麻と木綿などで、自分の糸をつくりましょう！	ひろいのぶこ
	13日(土)	10:30～16:30	中国・貴州省、苗民族の紐織りに挑戦！	鳥丸知子
	21日(日)	13:00～16:00	羊毛文化の糸紡ぎ	井関和代
	28日(日)	10:30～16:30	インド、ラバーリーのからだ機に挑戦！	上羽陽子
11月	11日(日)	午前、午後2回	ふたりで織りましょう！ 指をつかった機織り	ひろいのぶこ
	25日(日)	10:30～16:30	カード織りの世界 ー‘もじれ’から生まれる文様とテクスチャー	日下部啓子
	◎場所：特別展示場、本館2階セミナー室等 ◎事前申し込み制 ◎定員各15名			

みんなくゼミナール《織りとはなにか、織機とはなにか。民族事例を中心に研究者が語ります》

9月15日(土) 第412回	手仕事への回帰	吉本 忍
10月20日(土) 第413回	バントウのくびとのラファイ織り	井関和代
11月17日(土) 第414回	東南アジアの織機と衣装	内海涼子

◎場所：本館講堂 ◎開催時間：会期中第3土曜日 13:30～15:00 ◎参加無料

ミニレクチャー《特別展を見学しながら、展示資料を中心に織りの研究者や専門家が話します》

9月	23日(日)	日本とラオスの腰機を中心に	柳 悦州
	24日(月)	ワラや縄を糸素材とした織物と織機	吉本 忍
	29日(土)	繊維素材としての絹—自給自足的な養蚕・糸作り・製織	行松啓子
10月	6日(土)	東南アジアの腰機の仕組み	内海涼子
	7日(日)	インド、牧畜民のからだ機について—ラバーリーを事例に	上羽陽子
	8日(月・祝)	タテ糸の張力と織機の種類	吉本 忍
	13日(土)	織物の素材	金谷美和
11月	14日(日)	中国の六角形のカード織り	鳥丸知子
	27日(土)	アジアの麻織物—素材の特性と、織物工程の関係を読み解く—	ひろいのぶこ
	4日(日)	絹糸と織物の関係について	藤井健三
	10日(土)	「天工開物型」腰機について	内海涼子
	15日(木)	異形の織物と織機	吉本 忍
	23日(金・祝)	平織から紋織について	藤井健三
	24日(土)	カード織りの世界—インドネシア・トラジャ人、マササ人を中心に	日下部啓子
11月	27日(火)	織りのカラクリ大発見	吉本 忍

◎場所：特別展示場 ◎開催時間：13:00～14:00 ◎要観覧料

みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう《本館展示場に展示されている織機や織物について、みんなくの研究者が話します》

9月	23日(日)	南アジアの衣装と文様表現	上羽陽子
	30日(日)	東南アジアの織機と織物	吉本 忍
	7日(日)	アイヌの織物	齋藤玲子
10月	14日(日)	ベトナム、黒タイの機織り文化	櫻永真佐夫
	21日(日)	見方を発見—染織資料と出会ってみよう	上羽陽子
	28日(日)	中南米の織機と織物	吉本 忍
	4日(日)	アフリカの織物とプリント布	吉本 忍
11月	11日(日)	オセアニアの織物	吉本 忍
	25日(日)	ヤギ毛の繊維利用について	上羽陽子

◎場所：本館展示場 ◎開催時間 14:30～15:30 ◎要観覧料

機織りの実演《世界の広範な地域で使用例がみられる杵機。実際に機織りをおこない、そのカラクリを紹介します》

10月23日(火)、11月24日(土)	14:30～16:00(随時)	ジャカード織機の実演	上羽陽子
10月27日(土)	11:00～16:00(随時)	銅島殿通の実演	吉島政之輔
11月27日(火)	11:00～16:00(随時)	ドビー織機・足踏み織機の実演	前原征海

◎場所：特別展示場2階 ◎要観覧料

友の会講演会（会員限定）10月6日(土) 第412回
「世界の織機と異形の織物」 吉本 忍

◎場所：本館 第5セミナー室
◎開催時間 14:00～15:00
友の会講演会に関するお問い合わせ
財団法人千里文化財団
「国立民族学博物館友の会」係 電話 06-6877-8893

国立民族学博物館

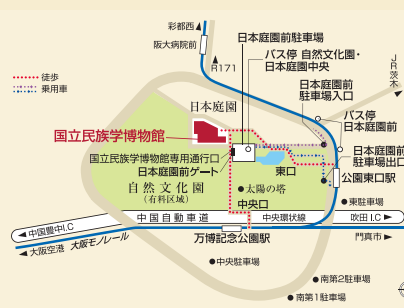
〒565-8511 大阪府吹田市 千里万博公園 10番1号
TEL.06-6876-2151 (代) <http://www.minpaku.ac.jp/>

【観覧料】一般 830円 (560円)、高校・大学生 450円 (250円)、小・中学生 250円 (130円)

①は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、授業レポート等の作成を目的とする高校生、3ヶ月以内のレポート、満65歳以上の方の割引料金(要証明書等)*大学等は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程

※自然文化園(有料区域)を通ってこられる場合、自然文化園各ゲートの券売機で当館(国立民族学博物館)の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。

※障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに無料で観覧できます。また、毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。ただし、自然文化園(有料区域)を通行される場合は、同園の入園料が必要です。



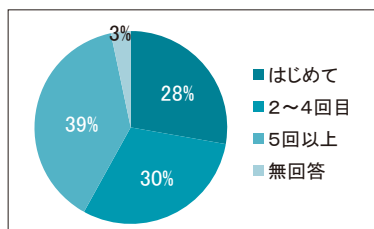
大阪・千里 万博記念公園内
■大阪モノレールで万博記念公園駅・公園東口駅下車。徒歩約15分
■阪急茨木市駅、JR茨木駅、北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車。徒歩約15分(茨木方面から「自然文化園・日本庭園中央」経由のバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。)
■乗用車の場合は、万博記念公園の日本庭園前駐車場(有料)から徒歩約5分
■タクシーは、万博記念公園の日本庭園前駐車場まで乗り入れます。日本庭園前ゲート横にある国立民族学博物館専用通行口をお通りください。
■大阪モノレール公園東口駅からは自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。

※表面の織物のモデル

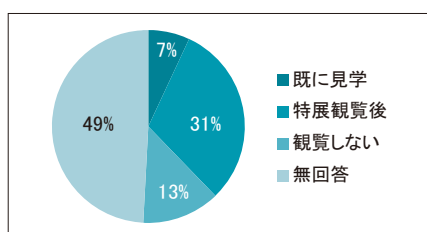
特別展「世界の織機と織物—— 織って！みて！織りのカラクリ大発見」 アンケートグラフ

○アンケート回答数 215件

来館回数

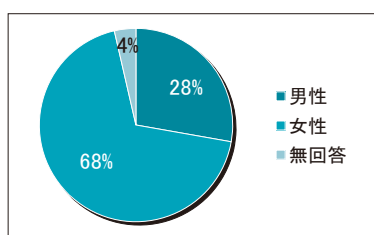


本館展示の観覧について

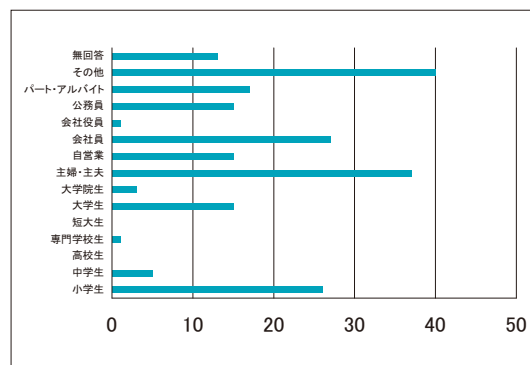


性別

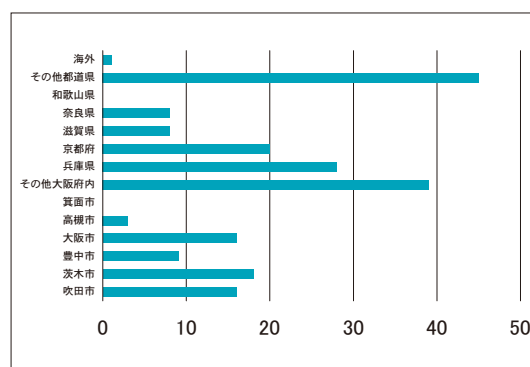
(男女比)



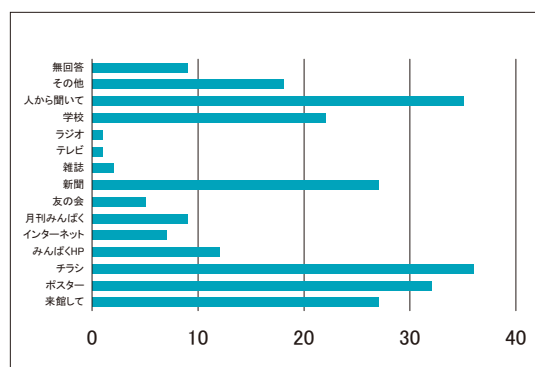
職業



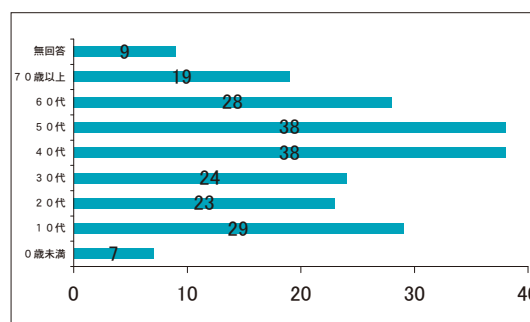
どこから来られましたか？



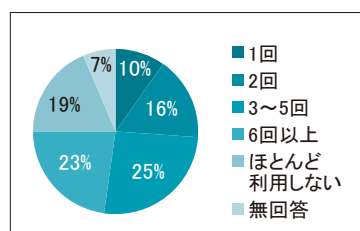
特別展を知ったのは（複数回答）



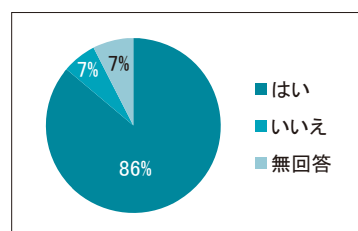
年代別



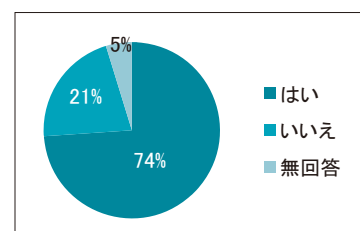
博物館を年間何回ぐらい訪れますか



今回の特別展はあなたの周りのかたにお勧めできる内容でしたか



以前から織機や織物についてご存知でしたか



企画展

記憶をつなぐ

— 津波災害と文化遺産 —

2012年9月27日(木)～11月27日(火) 国立民族学博物館 本館企画展示場A

開館時間：10:00～17:00(入館は16:30まで) 休館日：水曜 無料観覧日：11月3日(土・祝)文化の日、11月17日(土)、18日(日)関西文化の日

観覧料：一般420円(350円)、高校・大学生250円(200円)、小・中学生110円(90円)

()は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、授業レポート等の作成を目的とする高校生、3ヶ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書等)*大学等は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程 ※全国のチケットぴあ(Pコード：673-285)、サークルKサンクス、ローソン(Lコード：57144)、セブンイレブンで本館展示割引観覧券(一般350円 購入日から1年間有効)をお買い求めいただけます。※自然文化園(有料区域)を通過してこられる場合、自然文化園各ゲート脇の券売機で当館(国立民族学博物館)の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。※障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに無料で観覧できます。また、毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。ただし、自然文化園(有料区域)を通行される場合は、同園の入園料が必要です。

2013年1月30日(水)～3月15日(金) 国文学研究資料館 1階展示室

開室時間：10:00～16:30(入室は16:00まで) 休館日：日曜、月曜、祝日 観覧料：無料

主催：国立民族学博物館 / 国立歴史民俗博物館 / 国文学研究資料館 後援：文化財保存修復学会 / 日本民俗学会 / 日本民具学会 / 財団法人千里文化財団



記憶をつなぐ

— 津波災害と文化遺産 —

2011年3月11日に発生した東日本大震災による甚大な被害は、私たちの社会に大きな試練をもたらしました。原発の被害はもとより、地震・津波の傷は深く、「大震災」は現在進行中のできごとです。

地域コミュニティそのものの存続があやぶまれるなかで、被災地では例年以上に祭りや芸能の奉納が活発に行われました。それは、人間の「生」にとっての、有形・無形の文化遺産の価値をあらためて認識させられるできごとでした。

こうした文化遺産の復興の背後には、さまざまな形の支援がありました。私たち国立民族学博物館も、同じ人間文化研究機構に属する国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館などと連携し、復興の支援に関わってきました。

この展示では、文化遺産の復興の作業に目を向け、私たちにとっての文化遺産の意義をあらためて見直すとともに、その文化遺産を通じて、この震災・津波災害の記憶と経験をいかに未来に継承し、次代の社会を築き上げていくのかを考える契機となればと願っています。

みなさまのご観覧をお待ちしています。

●国立民族学博物館 関連事業

企画展関連写真展

「写真で見る東日本大震災と被災文化遺産のレスキュー」

会場：国立民族学博物館 本館企画展示場A

会期：2012年5月31日(木)～8月21日(火)

●国文学研究資料館 関連事業

「国文学研究資料館 災害連携研究報告会」

会場：国文学研究資料館 大会議室

日時：2013年3月8日(金) 13:00～16:00

交通のご案内

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立民族学博物館

国立民族学博物館(みんぱく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。

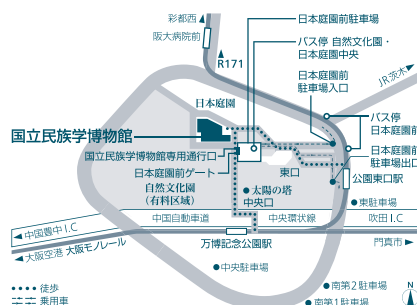
●大阪モノレール.....
「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車徒歩約15分

*展示場をご覧になる方は、みんぱくの観覧券をゲートにてお買い求めになれば自然文化園(有料区域)を無料で通行できます。

●阪急茨木駅.....
JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から、自然文化園・日本庭園中央経由のバスが1時間に1本程あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。)

●タクシー.....
万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れます。

●乗用車.....
万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩5分
*「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある「国立民族学博物館専用通路」をお通りください。



お問い合わせ 国立民族学博物館
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL. 06-6876-2151 (代)
<http://www.minpaku.ac.jp/>



国文学研究資料館

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

●多摩都市モノレール.....
JR立川駅下車、多摩モノレール立川北駅に乗り換え「高松駅」下車徒歩約10分

●立川バス.....
JR立川駅北口2番のりば乗車「立川学術プラザ」バス停下車徒歩1分
JR立川駅北口2番のりば乗車「裁判所前」バス停下車徒歩5分
JR立川駅北口1番のりば乗車「立川市役所」バス停下車徒歩3分

●徒歩.....
JR「立川駅」下車徒歩約25分

●自動車.....
中央自動車道「国立府中IC」から約15分 *無料駐車場あり
(モノレール倉庫)

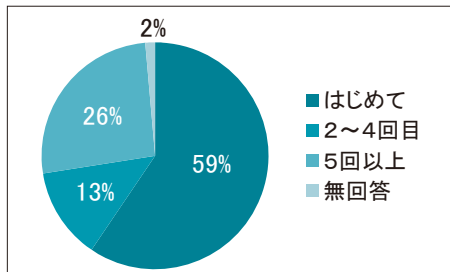


お問い合わせ 国文学研究資料館
〒190-0014 東京都立川市緑町10-3
TEL. 050-5533-2900 FAX. 042-526-8604
<http://www.nijl.ac.jp/>

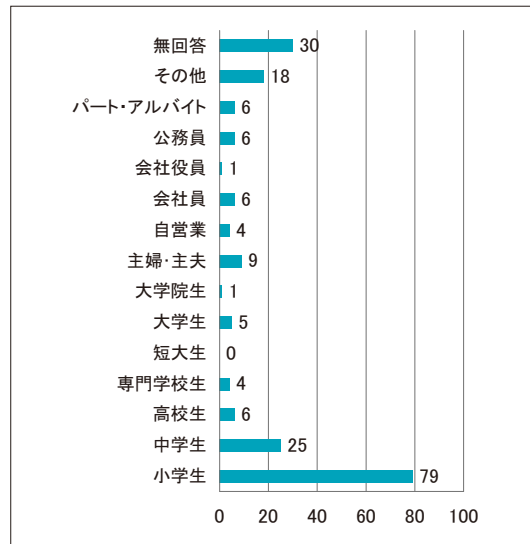
企画展「記憶をつなぐ——津波災害と文化遺産——」 アンケートグラフ

○アンケート回答数 200件

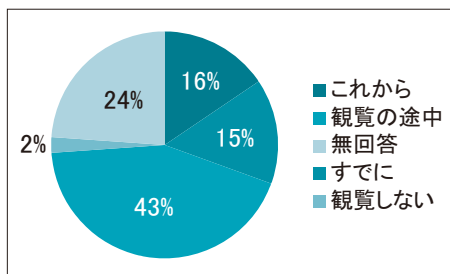
来館回数



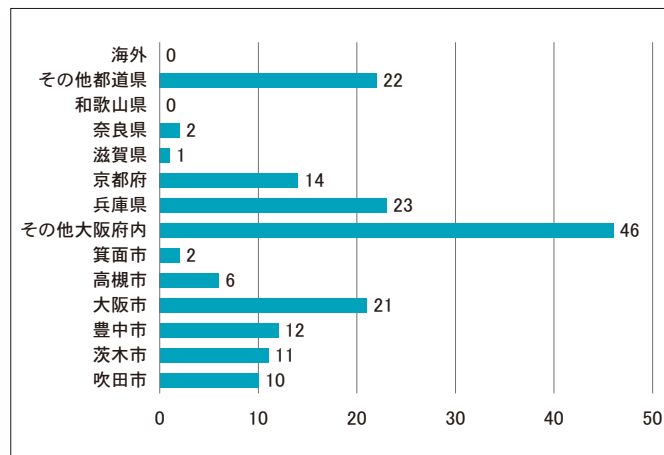
職業



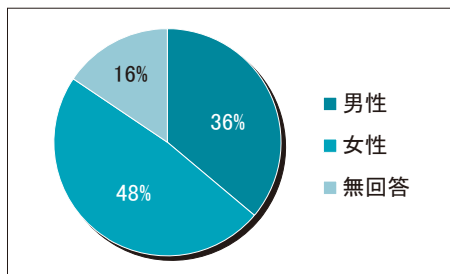
常設展示場の観覧について



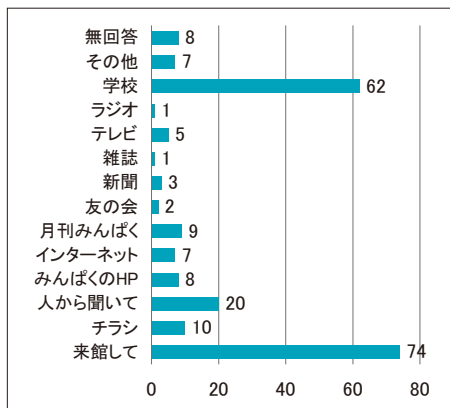
どこから来られましたか？



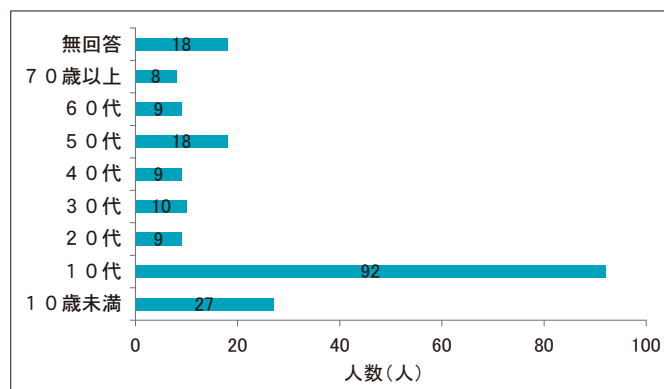
性別（男女比）

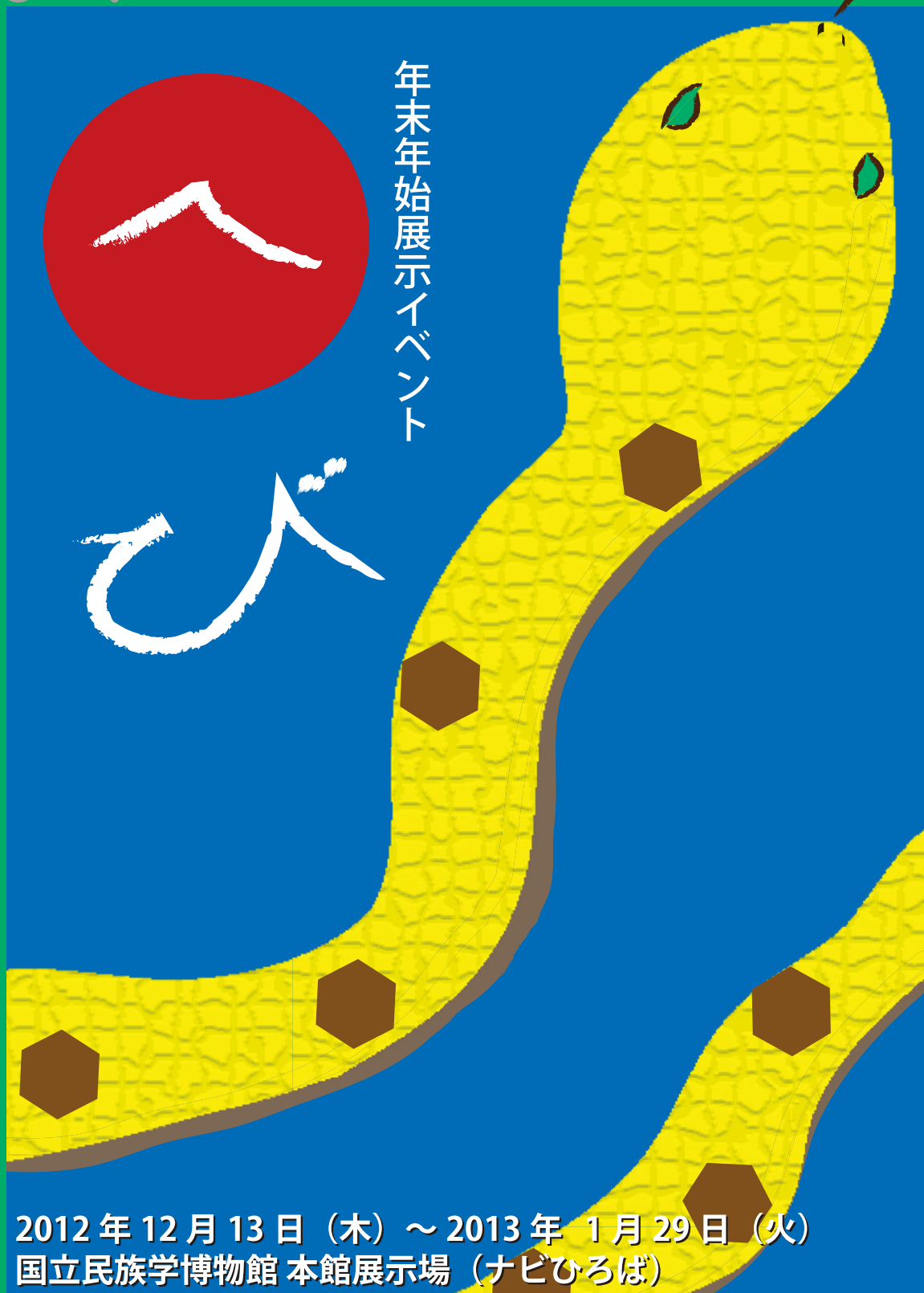


企画展を知ったのは（複数回答）



年代別





年末年始展示イベント

2012年12月13日(木)～2013年1月29日(火)
国立民族学博物館 本館展示場 (ナビひろば)

〔開館時間〕 10:00～17:00(入館は16:30まで)
〔休館日〕 水曜日、年末年始(12月28日～1月4日)
〔無料観覧日〕 1月14日(月・祝)
〔観覧料〕 会場のナビひろばは無料。ただし、本イベント以外の展示をご覧になる方は観覧料が必要です。
※本イベントのみ観覧される方は、自然文化園(有料区域)を通行される場合、入園料が必要です。

年末年始展示イベント



2013年の干支である「へび」をテーマに、みんぱく収蔵の資料と世界各地の「へび」にかかわる興味深い情報をおとどけいたします。
年末年始の一日を、世界の人びとと「へび」のつながりに触れながらみんぱくで過ごしてみませんか？

関連イベント

みんぱくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 「年末年始展示イベント『へび』と教職員研修会」

開催日：2012年12月23日（日・祝）
時 間：14:30～15:30
場 所：本館展示場（ナビひろば）
参加費：無料 申込不要
講 師：小林繁樹（国立民族学博物館 教授）

ワークショップ 「カルタを作って世界の『へび』をみてみよう！」

展示の解説を聞いたあと、カルタを作って遊びます。
開催日：2013年1月14日（月・祝）無料観覧日
時 間：①10:30～12:30（10:00受付開始）
②14:00～16:00（13:30受付開始）
場 所：本館展示場（ナビひろば）
講 師：小林繁樹（国立民族学博物館 教授）
参加費：無料 要事前申込（各回16名）
対 象：一般 ※小学2年生以下は保護者同伴で参加可能
応募方法：下記の記入事項を明記してEメールまたは往復ハガキにて応募してください。

記入事項：①参加者氏名 年齢 性別 ②住所 ③電話番号
④申込者名 ⑤(1)午前／(2)午後 の参加希望

※Eメール1通ハガキ1枚につき参加者1名まで応募可能です。
※定員に達し次第、募集を締め切らせていただきます。

お申し込み先：
国立民族学博物館情報企画課
「へび」関連ワークショップ担当
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
workshop@idc.minpaku.ac.jp



Produced by とくろまきコブラーズ
ちらしデザイン 古口順子

みんぱく教員によるギャラリートーク

開催日：2013年1月14日（月・祝）無料観覧日
時 間：①11:00～11:30 ②14:30～15:00
場 所：本館展示場（ナビひろば）
参加費：無料 申込不要
講 師：小林繁樹（国立民族学博物館 教授）

みんぱくミュージアムパートナーズ（MMP）企画 「おりがみで遊ぼう！～干支シリーズ～『巳』」

おりがみで干支を折るワークショップです。
開催日：2013年1月14日（月・祝）無料観覧日
時 間：10:00～/10:40～/11:20～/13:00～/13:40～
14:20～（各回40分程度）
場 所：本館1F エントランスホール
参加費：無料 申込不要 当日受付（各回10名程度）

みんぱくミュージアムパートナーズ（MMP）企画 「えとの『巳』で絵馬をつくろう」

本館展示場にある「へび」をスケッチするワークショップです。
開催日：2013年1月19日（土）
時 間：10:30～16:00（随時実施）
場 所：本館1F エントランスホール・本館展示場
参加費：無料 申込不要（参加は随時受付）
※別途、観覧料が必要です。

観覧料：一般420円、高校・大学生250円、小・中学生110円
※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

◇詳しくは、みんぱくホームページをご覧ください。
<http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/eto/2013hebi>

国立民族学博物館

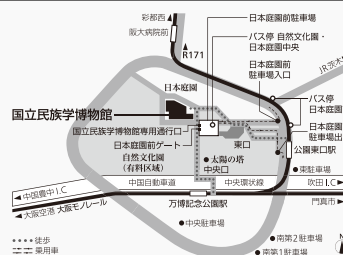
交通のご案内 国立民族学博物館（みんぱく）は大阪・千里の万博記念公園内にあります。

- 大阪モノレール…「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車徒歩約15分
 - バス……………阪急茨木市駅・JR 茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分（茨木方面から、自然文化園・日本庭園中央経由のバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。）
 - タクシー……………万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。
 - 乗用車……………万博記念公園「日本庭園前駐車場」（有料）から徒歩約5分
- ※「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある「国立民族学博物館専用通行口」をお通りください。

みんぱく
携帯サイト



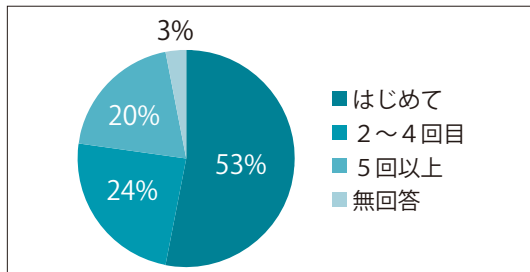
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
Tel: 06-6876-2151
<http://www.minpaku.ac.jp/>



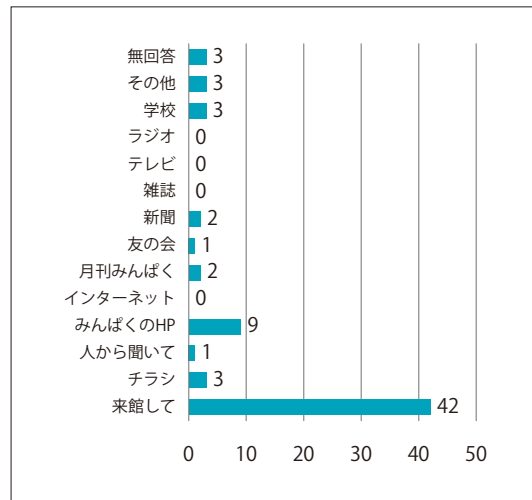
年末年始展示イベント「へび」 アンケートグラフ

○アンケート回答数 160件

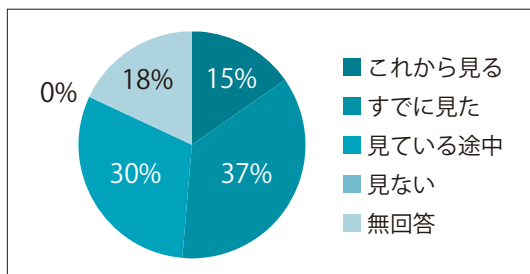
来館回数



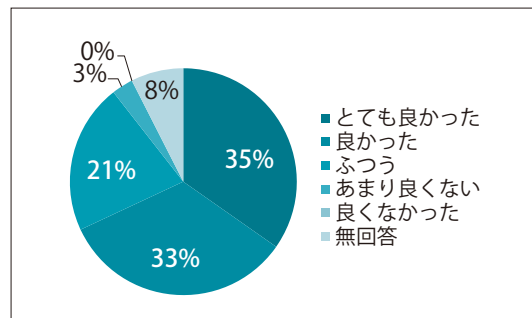
このイベントを知ったのは（複数回答）



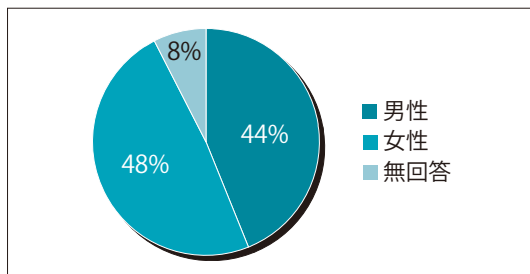
本館展示について



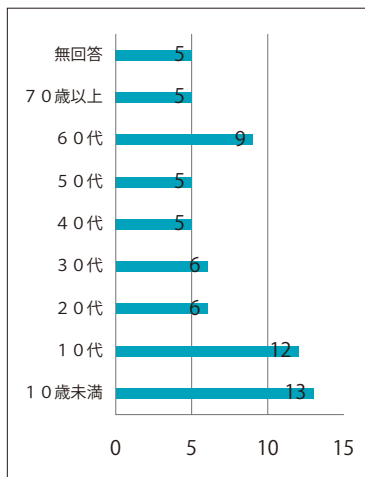
感想



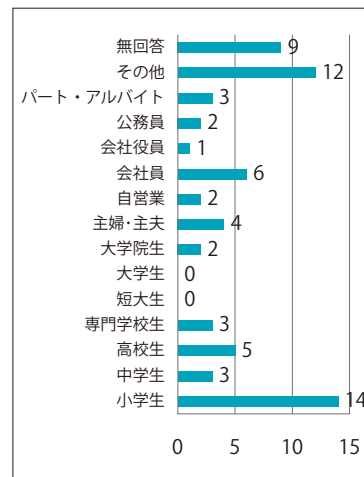
性別（男女比）



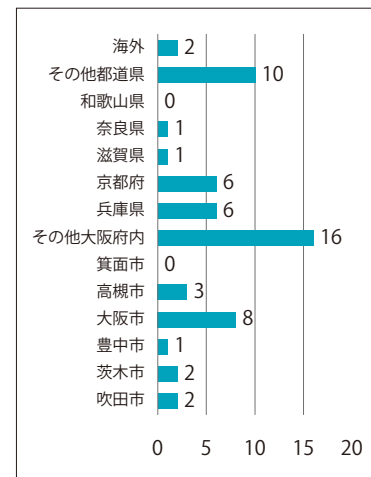
年齢



職業



住所





スタッフ紹介



スタッフ紹介（2012年度）

朝倉敏夫〔あさくら としお〕センター長（併）教授

久保正敏〔くぼ まさとし〕教授

小林繁樹〔こばやし しげき〕教授

園田直子〔そのだ なおこ〕教授

吉田憲司〔よしだ けんじ〕教授

林勲男〔はやし いさお〕准教授

日高真吾〔ひだか しんご〕准教授

福岡正太〔ふくおか しょうた〕准教授

南真木人〔みなみ まきと〕准教授

山本泰則〔やまもと やすのり〕准教授

上羽陽子〔うえば ようこ〕助教

川瀬慈〔かわせ いつし〕助教

中村嘉志〔なかむら よしゆき〕客員教員

平井康之〔ひらい やすゆき〕客員教員

岩谷洋史〔いわたに ひろふみ〕機関研究員

呉屋淳子〔ごや じゅんこ〕機関研究員